私の言葉

奮起せよ！早慶明

三浦元秀
（芝浦工大教授・ハンドボール部長）

一、私は最初に自分の大学のことを言わせていただく。別に自慢するために言うのではない。芝浦工大が優勝するのはうれしいが、その反面悲しいことでもある。それは名門といわれている早大、慶大、明大、それに教大、日体大があまりにもふがいないからである。芝浦工大が関東学生リーグの一部に昇格したのは確か昭和29年の春。それいらい昨年12月の全日本総合室内選手権大会までの10年間、優勝と名のつくものをいただいたのは36回の多きに達している。関東学生リーグの12回をトップに、東日本学生選手権が7回、全日本学生王座が6回、全日本学生選手権が5回、全日本総合選手権が3回、全日本総合室内選手権が2回、東京都選手権が1回となっている。このほか準優勝が13回、第3位が5回と、大会があればかならずベスト4に残っている。これは芝浦工大が強いのではなく、前にも言ったように他の大学が強くならないからである。こんな状態がいつまでも続くようだと、ハンドボールの将来は真っ暗である。芝浦工大をどんどん破るようなチームが出てきてほしいと願っているわけです。その意味において38年度に立教大が全日本学生選手権、全日本総合選手権、関東学生春季リーグ戦に優勝、全日本総合室内選手権で準優勝したときは、芝浦工大が優勝したときよりもうれしかった。〝強敵現われる〟と私は大いに奮起したわけです。負け惜しみでないことを繰り返して申し上げます。

二、アマチュア・スポーツ、特に学生スポーツは早大、慶大、明大が強くならないとそのスポーツは衰退していくものです。この三大学の名前は北は北海道から南は鹿児島まで鳴り響いています。地方の子弟はこの三大学にひとつの〝あこがれ〟を持って見ています。たとえば芝浦工大野球部の監督が辞任したといってもマスコミはそれほど騒がないものです。ところが早大野球部の監督が辞任となれば、スポーツ面は大きく扱い、ニュースとなる。そういったように早大、慶大、明大の動きはファンがよく注目しています。だからこの3チームがどのスポーツの分野にでも強くならないと発展は考えられません。ハンドボール界においても同じことです。この3チームが関東学生リーグ、全日本のあらゆる大会でどんどん優勝してほしい。この3チームのほかに、ハンドボールの名門日体大、教大の奮起を希望しておきます。またことしの関東学生春季リーグ戦では教大、法大、立大が強いときいています。芝浦工大もさらに練習を重ねて行くことをお誓いします。

ハンドボール「第16号目次」

第5回男子7人制
世界選手権特集

なるか世界のベスト8突入

第5回男子7人制世界ハンドボール選手権大会は3月6日から15日までプラハ（チェコ）で開かれる。すでに日本チームは別表の選手団を結成し、渡辺団長ら一行18人は2月19日午後10時30分羽田発のフランス航空機で北極回りで出発した。20日から3月1日までフランスで強化合宿し、3月2日プラハにはいる。チェコには15日まで滞在し、16日プラハを出発してパリに向かう。パリでフランスのステラーチームと国際試合を行ない、20日パリを出発しイスラエルに向かう。イスラエルでも国際試合を行なったあと、24日イスラエルを出発し、フランス航空機で3月25日午後9時羽田着で帰国する。

選手団の選考事情

日本チームの役員、選手の選出については昨年10月の山口国体のとき、下松市で開かれた全国評議員会で「高嶋理事長に一任」ということに決定した。同理事長は国体終了後、東京で常務理事会を開いて検討した結果、別表の選手団を選出した。役員については常務理事会が全員一致で団長に渡辺和美氏（東京都協会長、大崎電気工業KK社長）を推薦、同氏の了承を得た。監督に高嶋冽理事長を三たび推薦した。総務についてはハンドボール発展のため、全国に通信網を持ち、ハンドボール記者として経験の長い共同通信社の鷲尾武治記者（東京都協会理事）の派遣を決めた。そして世界選手権大会はじめヨーロッパのハンドボールの近況、国際親善試合を広く全国の新聞社に報道してもらうことになった。マネジャーは最初山口県協会理事長の藤田信義氏を推したが、同氏はこれを固く辞退した。このため愛知県協会の栗脇嶷氏を推薦したが、同氏も藤田氏と同様に辞退した。このため静岡県理事長の片瀬喜代次氏に連絡、同氏はこれを了承した。

選手については高嶋理事長が渡辺団長と協議し、最初大崎電気9、芝浦工大、立大2、日体大ＯＢ1を決めた。これは経費が個人負担なためにこのような形となった。このうち立大は江名選手が辞退したので、大崎電気10、芝浦工大2、立大1、日体大ＯＢ1となった。

第一次合宿は横浜で

1月7日から16日まで横浜市文化体育館で第1次強化合宿にはいった。宿舎はヨーロッパ遠征の準備を兼ねて横浜港の氷川丸と決めた。文化体育館、氷川丸の使用に当たっては神奈川県協会の若崎理事長が関係者に交渉してくれたもの。強化合宿は高嶋監督の指導で行なわれた。世界選手権大会の第1次リーグで2勝をあげて第2リーグに進出する大きな目標があるので、高嶋監督が自らコーチに乗り出した。

スピードを出せ

団長　渡辺和美

私は選手諸君に〝自分の持っているスピード、技術をじゅうぶん発揮すること〟を希望する。特にスピードさえじゅうぶんならルーマニアといえどもひけを取らない。私はそう思っている。日本のプレーヤーはヨーロッパのプレーヤーに比べ、からだが小さいといわれている。しかし日本の選手に

チェコ、スウェーデンが有力

大会の方法

参加16チームを4ブロックに分け、各ブロックで第一次リーグ戦を行なう。

この組み合わせは、半年前の昨年9月発表されている。参加16カ国のうち、予選によってこの大会の出場権を獲得したチーム（国）もあり、この大会までに10カ国以上がすでにフルイにかけられているわけである。

第一次総当たり戦の結果、各ブロックの上位2チーム計8チームを選び、これをさらに二つのブロックに分けて第2次リーグ戦が行なわれる。準決勝リーグ（セミ・ファイナル・ラウンド）と呼ばれるのがこれである。

このあと二つのブロックの同順位同士が顔を合わせ、優勝以下8位までを決めるわけである。優勝するまでには7試合（第1次3、第2次3、順位）を戦うわけだ。

日本の実力は

日本からはこれまで男子7人制（36年）、女子7人制（37年）、学生（38年）と3回に

は日本人しか持っていない独得のプレーがあるので少しも心配していない。自己の最高のプレーを発揮してくれれば、たとえ負けても悔いはない。今野、竹野、福本、田口、宮原（藤）の5人は第4回の世界選手権に出場しており、ヨーロッパのハンドボールをよく知っている。この5人が中心となるのだからたのもしい。特に監督の高嶋君はかつては日本でも優秀なプレーヤーだったし、戦前の国際試合に出場している。それに第4回の男子世界選手権（36年）、第2回の女子世界選手権（37年）の監督としてヨーロッパに遠征し、ヨーロッパのハンドボール技術をよく知っている。すべては高嶋監督の手腕にかかっている。選手も日本のA級を選抜しているので、かならずよい成績をあげてくれるものと信じている。

ベストをめざして

監督　高嶋　洌

36年の第4回大会に初めて参加したときは、正直に言って無我夢中だった。この大会に参加するまでは日本は11人制が主であり、7人制は完全に普及されていなかった。したがって7人制世界選手権ではチームワークがなかった。

海外遠征の第1戦はフランスのナショナルチームとやったが、このときも前半はなにもわからなかった。しかし後半になってやっと7人制というものがわかり、後半だけはタイスコアだった。しかしこんどは前回のときと違う。38年4月から7人制1本化に踏み切って、これに全力を注いだ。私は3回目の遠征であり、ことしは悔いのない試合ができる。

第一目標はあくまでルーマニアに勝つことである。しかし「敵を知り、己れを知るのが名将である」から大物を一枚落としてソ連以下のチームに勝ちたい。3試合やるので2勝をあげてベスト8にはいりたい。だが日本の弱点は国際試合が少ないことだ。ヨーロッパのチームは1年に10回以上の国際試合を経験している。このハンディキャップを練習に次ぐ練習でカバーし、好成績をあげたい。

欧州遠征メンバー

団　長	渡辺和美	（大崎電気工業社長 東京都協会長）
監　督	高嶋　洌	（日本協会理事長 芝浦工大教授）
総　務	鴛尾武治	（東京都協会理事 共同通信社記者）
マネジャー	片瀬喜代次	（静岡県協会理事長 清水市立商高教諭）
主　将	今野邦彦	（大崎電気工業 芝浦工大出）
G　K	福本　弘	（大崎電気工業 芝浦工大出）
	尾形　譲	（立　大）
F　P	竹野奉昭	（大崎電気工業 日体大出）
	東　嘉伸	（大阪府三国丘高教諭 日体大出）
	宮原藤支男	（大崎電気工業 芝浦工大出）
	田口侑義	（大崎電気工業 芝浦工大出）
	北村尚英	（大崎電気工業 芝浦工大出）
	住広尚三	（芝浦工大）
	新　繁樹	（芝浦工大）
	井上素行	（大崎電気工業 新居浜工高出）
	宮原　宏	（大崎電気工業 塩山高出）
	金田純男	（大崎電気工業 中京商出）
	餅原正脩	（大崎電気工業 中京商出）

第1次リーグ組み合わせ

A組　（ゴットワルドフ）
東独，西独，ユーゴ，米国

B組　（ブラチスラバ）
スウェーデン，アイスランド，ハンガリー，アフリカ地区代表

C組　（プラハ）
チェコ，デンマーク，フランス，スイス

D組　（パルドビッチ）
ルーマニア，日本，ノルウェー，ソ連

わたって世界選出権に出場しているが、1勝もあげていない。今度の大会で、はたして「宿願の1勝」をあげることができるかどうか。これは大きな興味であり、遠征の焦点でもある。

日本の属するブロックは、ルーマニア、ノルウェー、ソ連である。このブロックは今大会最強のメンバーが集まり、日本にとってはクジ運が悪かった。ルーマニアは前回の優勝国であり、ノルウェーは前回7位だ。前回は予選で失格したものの、ソ連の最近の台頭ぶりも注目されるものがある。

最近の日本のレベルからいえばノルウェーとは互角。あるいは勝てるだろうが、ルーマニア、ソ連には一歩を譲るのではなかろうか。

選手団はノルウェー、ソ連を破って準決勝リーグ出場を目標にしているようだが、予断は許さない。ただルーマニアの不調が、最近よく伝えられているので未知数のソ連よりもルーマニアを食うことは考えられよう。

宿願の1勝はできそうだが、準決勝リーグ出場（8位以内入賞を意味する）はむりとみるのが順当ではないか。

優勝争い

番狂わせがなければベスト8は西独、東独、スウェーデン、アイスランド、チェコ、デンマーク、ルーマニア、ソ連ということになるようだ。優勝候補はスウェーデン、ルーマニア、それに地元チェコ。ダークホースはソ連、西独、東独ということになるだろう。

2連勝を狙うルーマニアは最近調子が落ちていると聞いている。これはおそらくメンバーの転換期を迎えているためで、復調していないと2連勝はむずかしくなる。

またその程度によっては、第1次リーグで、日本も大いに食い込むチャンスが生まれてこよう。

となれば前回、決勝でルーマニアに延長で惜敗したチェコが今回は地元でもあり、大いに優勝のチャンスがあるわけだ。第2回、第3回優勝のスウェーデン、（前回3位）も王座奪還に必死。3回目の優勝の可能性はじゅうぶんある。

このほか昨年6月の11人制選手権で世界タイトルを初めて獲得した東独、名門復興に意欲燃やす西独、〝大会の目〟といわれるソ連の実力も高く買われている。ベスト8の激突は史上まれにみる熱戦を展開しそうで、興味は一段と深いものがある。

（黒尾　武）

プロフィール

期待いっぱいの18代表

第5回世界7人制選手権大会に参加する日本代表チーム、渡辺団長ら18代表の横顔と略歴を紹介しよう。

団長　渡辺和美

監督　高嶋　洌

総務　鷲尾武治

ハンドボールでも実力者

団長　渡辺和美

〔横顔〕言わずと知れた大崎電気の社長。男女両チームを結成し、実業団の王座を占めたのだからりっぱである。第一回の男子遠征には今野、竹野、宮原（藤）、田口、福本、第一回の女子遠征には宮原(俊)監督、宇井、古谷、深津、田村、黒川の社員を送り出したほど。ハンドボールに傾ける情熱は大きい。昨年4月から東京都協会の会長に就任すると事務所を同社に置き、また初めて東京選手権大会を開くなどその手腕ぶりに理事諸君が驚いている。若くして社長になり、今日の大崎電気を築き上げた力は大したものである。会社ではワンマンぶりを発揮して笑顔ひとつ見せないが、ことハンドボールになるととたんにエビス顔。だからレナウン、東京重機、千代田印刷機の社長に話をつけてチーム結成を働きかけ、選手集めにも一生懸命。「やる以上はトコトンまで。名誉職気どりの理事はやめてもらう。これがハンドボールを盛んにする秘訣」と豪語し、理事会に出席簿をつくって理事の勤務評定をやり出した。ハンドボールに首を突っ込んだのは高松宮ご夫妻の影響によるもの。ゴルフはハンディ13。協会の高嶋理事長が長兄、自分が次兄、共同通信の鷲尾記者が末弟。つまり〃ハンドボール気狂い3人の侍〃のひとり。

〔東京都出身、大崎電気工業社長、東京都協会会長、40歳〕

球界の第一人者

監督　高嶋　洌

〔横顔〕ハンドボール界の第一人者であることはご存じのとおり。日本体育協会の中でも青年将校といわれるだけあって言うことがしっかりしている。10年間協会の理事長をつとめている。ハンドボールがオリンピック種目から除外されたが、いまでもJOC委員として東京オリンピック大会のために努力している。「オリンピックばかりがスポーツではない」と割り切って世界選手権に大きな夢をかけている。36年の第1回男子、37年の第1回女子遠征の監督とし欧州に渡り、さらに国際連盟総会にも出席して日本のハンドボールを世界に紹介した。こんどの遠征もいちど断わったが、「タカ（高嶋のこと)が行かなければだめだ」とむりに押し出された形。西ドイツに友人が多いのもハンドボール界のためには大きなプラス。「ハンドボールの虫」というより「ハンドボールの主」。芝浦工大をNO・1にしたのも彼の力によるもの。「有能なハンドボールマンを養成し、日本のハンドボールをさらに前進させたい。私の希望はハンドボールがオリンピック種目になること。東京で世界選手権大会を開くこと」と言う。昨年4月芝浦工大教授になったが、このときも「ハンドボール優先」の一札入れているところはさすが。

〔長野県出身、日本協会理事長、芝浦工大教授、42歳〕

カゲの協力者

総務　鷲尾武治

〔横顔〕戦後の21年からハンドボールを担当している共同通信社のベテラン記者。21年の協会役員対記者クラブの親善試合に出てからいっぺんにハンドボール気狂いになった変わり種。渡辺団長、高嶋監督とは仲良し3人組。「ハンドボールの記事を書き、これを日本国中に報道してくれる人。しかもハンドボールに情熱を持っている人」ということで役員に選ばれた。まがったことが大きらい。言いにくいことをズケズケ言うのが玉にキズ。ちゃきちゃきの江戸っ子。生れは芝公園の近くで育ったのは向島。たのまれるといやな顔ができない損な男。そんなことでいま協会機関誌「ハンドボール」の編集を手伝ったり、渡辺会長の指名で東京都理事をやったりしている。「マイナー・スポーツを育てるのが新聞記者のつとめ」＝これが彼のモットーである。どんな大会でも顔を出している。共同通信ではデスクのほか、ハンドボール、大相撲を担当している。

〔東京都出身、共同通信社運動部、東京都協会理事。37歳〕

誰にも負けない情熱

マネージャー　片瀬喜代次

〔横顔〕静岡県協会の実力第一人者。ハンドボールにかける情熱は大したものである。23年に清水市立商業高校に勤務するや、その年にハンドボール部をつくった。いまでは男女両チームの面倒をみている。第9回全国高校選手権で優勝しているのは、彼の努力によるものである。性格はまがったことが大きらい。人を世話するのをいやがらず、少しも労を惜しまない。38歳というのに、早くも仲人を3組もつとめている。日体大当時の同期生には中出盛雄（大阪府枚方工高教諭）、宇津野年一（名古屋工大講師、中京商コーチ）がいる。酒を飲むと「茶っ切り節」が得意。

〔静岡県出身、静岡県協会理事長、清水市立商業高校教諭、38歳〕

若手選手の養成に

主将　今野邦彦

〔横顔〕36年の第4回大会に次いで2度目の出場。GK出身で、いまは大崎電気(男子)の監督をやっている。函館工高から芝浦工大に進み、芝浦工大の全盛時代をつくり上げた。大崎電気に入社してからも若い選手の指導に当たり、GKを後輩の福本に譲ってチームの強化に努力。そして大崎電気をNO・1に押し上げた。ハンドボールに首を突っ込んだ動機がおもしろい。高校時代にハンドボールの練習を見ていたら「そこにいるの、ちょっと来い」と岡田先生に呼ばれた。そしてジャンプしてみたら、手がゴールポストのバーについた。とたんに「GK」となって翌日からインスタントGK。それまでハンドボールを知らなかったというエピソードの持ち主である。物静かな男。

〔北海道函館市出身、函館工高—芝浦工大卒、34年4月大崎電気工業入社、28歳〕

いまや名キーパー

GK　福本　弘

〔横顔〕36年の第4回世界選手権大会に出場してから、めきめき腕をあげた。相手がシュートする瞬間、一歩前に出てボールに向かって行く。この技術は欧州遠征から学んできた。これが広く全国に伝わり、大会ごとにGKのこのプレーが見られるようになった。これは大きなプラスである。今野、竹野君に言わせると「初めての欧州遠征で大きな収穫だったのはGKだと思う」と言う。右が強く（ゴールポストに向かって福本の左側）、左でも思うツボにはいるとほとんどカットしてしまう。ハンドボール入門のきっかけは竹野君と同じ。「遠征に行きたくてハンドボールをやった」という。北海道には函館市に3チームしかなかったので、予選に一度勝てば国体、全国高校に出場できたそうだ。この魅力にとりつかれたわけ。芝浦工大で1シーズンGK、2シーズンバックスをやったが、再びGKに転向した。大きな声を出して同僚を励ますのは有名。

〔北海道函館市出身、函館工高—芝浦工大卒、36年4月大崎電気工業入社、25歳〕

学生GKのNo.1

GK　尾形　譲

〔横顔〕中学時代は野球をやり、神代高一年の春に柔道の昇段試験を受けるほどからだがいい。そのうちハンドボールの練習を見て、「これはおもしろい」と思って自分からFWを買って出た。これが動機である。二年の春の合宿からGKがいないので、自分からGKに転向した。176センチ、70キロのGKはちょっと見当たらない。高校時代はピカ一、37年夏の韓国遠征にも選ばれている。立大に進学してすぐGKに起用され、関東学生春季リーグ、全日本学生、全日本総合の優勝に一役買った。「追い上げられたときに、ミスをやったときがいちばんくやしい」という。なかなかのファイターである。「趣味は…」と聞いたら即座に「無芸大食です」と答えた。実にはっきりしている。

〔東京都出身、都立神代高—立大在学中、19歳〕

日本一のシュート力

FP　竹野奉昭

〔横顔〕「ハンドボールをやれば遠征ができるので…」というのが、ハンドボールにとりつかれた原因である。名門済々黌高（熊本）から日体大に進み、しばらく日体大に勤務してから大崎電気に入社した。大型選手でロングシューターである。彼のシュートはピカ一。大崎電気ではいちばん足が早く、人一倍の負けずぎらいは有名。高校時代から恵まれ、国体、全国高校選手権で活躍した。「第19回国体（北海道）で豊中高を破って優勝したときは、ハンドボールをやってよかった」と思ったそうだ。戦後西独、ルーマニアが来日したときも出場、前回の世界選手権にも出場した。国際試合の経験は豊か。「FW出身だからディフェンスが弱い。これをなんとかしなくては…」と自分の欠点をよく知っているのはさすが。

〔熊本県出身、日体大卒、35年4月大崎電気工業入社、27歳〕

FP　竹野奉昭　　GK　尾形　譲　　GK　福本　弘　　主将　今野邦彦　　マネージャー　片瀬喜代次

FP　住広尚三

FP　北村尚英

FP　田口侑義

FP　宮原藤支男

FP　東　嘉伸

バックスのNo.1
FP　東　嘉伸

〔横顔〕 大阪の三国丘高校時代はバスケットボールの選手で、インターハイに2回出場している変わり種。30年4月に日体大に進学したとき、日体大の荒川監督（ハンドボール）から「ハンドボールをやるなら寮に入れてやる」といわれ、三国丘高校の村田先生から「お前は背が低いんだからバスケットをやめてハンドボールをやれ」と激励された。これが動機となってハンドボールに転向、いまでは日本でも指折りのチャンス・メーカーにのし上がった。球歴はことしで9年になる。日体大でバック専門、バックならどのポジションでもやりこなす。日体大3年からレギュラーとなって全日本選手権、関東学生リーグで活躍。「日体大にトン（東のこと）あり」といわせた。全日本総合室内選手権には5回優勝している。バックの選手というよりはオフェンスの選手といった方がいい。ボール回しにかけてはピカ一、チャンスメーカーである。「11人制のおもしろみがようやくわかりかけたときに7人制に切り替わった。しかしハンドボールの発展のためには、7人制に切り替えてよかったと思います」という。

〔大阪府出身、大阪府立三国丘高校教諭、日体大出、28歳〕

ピカ一のチャンスメーカー
FP　宮原藤支男

〔横顔〕 中学の先生が愛媛県の高橋満年理事長の人柄に敬服し、この先生のすすめで新居浜工高に入学と同時にハンドボールをやり始めた。高校時代はCF、芝浦工大ではおもにインナーをやっていた。芝浦工大の全盛期をつくった一人。学生時代に比べるとスピードは少し鈍ったが、ゴール前の動きは機敏である。チャンス・メーカーといった方がピッタリする。疲れを知らぬ男、背を丸めて走る姿はたのもしい。得意は右サイドからの倒れ込みシュート。「学生時代は無我夢中だったが、社会人になってからプレーの運び方がよくわかる」ほど余裕がでてきた。

「7人制に切り替っていちばん困ったことは、FW出身なのでディフェンスの感覚が薄い。それに相手に対しての詰めを誤ってしまうことがある。ことしはこの二つを大いに勉強したい」という。愛称「じいー」。

〔愛媛県出身、新居浜工高―芝浦工大卒、35年4月大崎電気工業入社。26歳〕

ファイトの持ち主
FP　田口侑義

〔横顔〕 桐生工高時代はからだが弱く、しかも小さかった。それでなにかスポーツをやってからだをじょうぶにしようと思い、野球を希望したが両親に反対された。それでハンドボールを始めたのがきっかけ。芝浦工大の一年までFWをやっていたが、二年の春にバックスに転向した。芝浦工大時代は名CHとして活躍し、芝浦工大の黄金時代を築くとともに第4回大会にも選抜されて遠征した。非常にファイトがあり、実業団にはいってからめきめきわざを磨いて若い選手を引っ張って行く。試合中に若い選手の動きをよく見て、正確なパスを送るのはさすが。ルーズプレーになるとベテランらしい動きをみせ、臨機応変の処置がうまい。からだが堅い。欲をいえば飛び込んで行くプレーがほしい。

〔群馬県出身、桐生工高―芝浦工大卒、36年4月大崎電気工業入社。25歳〕

すばらしい突進力
FP　北村尚英

〔横顔〕 〝ガンバリ屋〟のNO・1。芝浦工大で四年生の春の合宿で右腕を痛めながら休まず、つねに先頭に立って部員をリードしていた。責任感の強い男で、左腕一本で合宿を押し通した。性格はおとなしいが、いったんボールを握ると人間が変わってしまう。突進力は実にすばらしく、からだが柔軟で動きが早く、しかも勘がいい。肩がよく、コントロールがある。芝浦工大時代からポイントゲッターである。大学一年のときに早くもジャーナリストから目をつけられ、上級生になってから大崎電気の渡辺社長の目にとまるほどだった。FW出身なのでちょっとディフェンスに甘さがあるが、これからのプレーが楽しみ。大崎電気では竹野とともに主力。

〔岩手県盛岡市出身、盛岡一高―芝浦工大卒、38年4月大崎電気工業入社。23歳〕

得意はロングシュート
FP　住広尚三

〔横顔〕 下関西高の一年のとき、体育の授業でハンドボールをやっておもしろいと思った。二年のとき「ハンドボールをやらないか」とさそわれたのがきっかけ。芝浦工大にはいったのは、工業系の大学志望とハンドボールが強かったからという。「芝浦工大の一年のとき、松本の合宿がいちばんつらかった。あのときのことを思えば、いまの合宿はなんでもない。要するにかんばりですね。スポーツにはがんばりが大事です」と言う。得意はロングシュートである。非常に肩がいい。昨年秋の関東学生

リーグでライバル立大を破って優勝したのも、学生王座決定戦で同志社大を倒したのも、このロングがあったからだ。それにシュートするタイミングのつかみ方がよくなった。これは高嶋監督も認めている。しかしまだからだが堅く、フェイント動作があまりうまくない。これが彼の宿題である。一本調子になりやすい。これが長所であり、欠点でもある。「世界選手権でトップレベルの技術をおぼえそれを後輩に教えたい」――これが世界選手権への抱負。
〔山口県出身、芝浦工大4年、22歳〕

スピードが魅力　FP 新　繁樹

〔横顔〕中学時代はバレーボール、陸上競技をやっていた。大垣南高（岐阜）の一年のとき、ハンドボール部員が少なかったので引っ張り出された。ほとんどの選手が長続きしなかった中で、彼は人一倍のがんばりで押し通した。「ハンドボールのスピーディーさが魅力」という。芝浦工大進学は工業大学で勉強したいこと、ハンドボールが強かったことによるもの。ポストプレーにかけては学生界のなかでもトップクラス。肩を強くしてロングシューターにしたら、優秀なプレーヤーになる。欠点は、ハンドリングがまずい。高嶋監督は「ポストプレーは申しぶんない。ロングシュートをおぼえたら、鬼に金棒」という。「卒業したらクラブチームにはいって、ばりばりやりたい。」
〔岐阜県出身、芝浦工大四年、22歳〕

うまいポストプレー　FP 井上素行

〔横顔〕新居浜市の北中学時代はサッカーをやっていた。新居浜工高に入学してから、中学の恩師に「ハンドボールをやってみろ」と言われてハンドボールに転向した。『中学時代にハンドボールを見ていたのでこれが役立った』というから大したもの。北村、餅原、坂野とともに次の大崎電気を背負っていく選手である。11人制時代はLWをやっていたので、7人制になってからちょっとディフェンスが弱い。ディフェンスの技術をマスターしたら恐ろしい選手になる。足が早く、突進力がある。ミドル・シュートが得意。「フェイントがうまく、ポストプレーは太鼓判を押してもいい」と先輩の竹野君がほめるほどである。欲を言えば、シュートのさい、もう一歩エリアの中に踏み込んで打てば申しぶんない。ルーズプレーになると精神的な若さがある。もう少しずぶといプレーをやってみたらどうか。
〔愛媛県出身、新居浜工高卒、35年9月大崎電気工業入社、22歳〕

フェイントの修得へ　FP 宮原　宏

〔横顔〕塩山高一年生のとき、同チームが山梨県内で強く、インターハイに出場した。この強さにあこがれてハンドボール部にはいった。二年のときインナー、三年のときウイングをやるほど超スピードで伸びた選手。「7人制はスピードがあって実にすばらしい」と7人制の礼賛者。百メートルを12秒で走る選手である。手が長く、腕、腰が強い。倒れ込みシュート、ポストプレーがうまい。それにバックスをやらせてもソツがなく、「1対1なら絶対自信がある」と言う。ただ連係プレーに弱いのは若さのためか。「ぼくはフェイント・プレーがない。これをマスターしたい」と言う。先輩の今野、竹野両君も「フェイント・プレーが宿題」と期待をかけている。
〔山梨県塩山市出身、塩山高卒、36年4月大崎電気工業入社。21歳〕

うまいフェイント　FP 金田純男

〔横顔〕根っからのハンドボールマン。兄が向陽高（名古屋）でハンドボールをやっており、よく兄の弁当運びをやらされた。それでハンドボールを覚え、桜山中学（名古屋）の二年のときからハンドボールを始めた。高校進学も「ハンドボールがやれるところ」というので中京商をめざした。中京商時代はウイングをやり、卒業後もハンドボールがやりたくて大崎電気に入社した。フェイント・プレーがうまい。フェイントをかけたときのモーションが早く、勘がいい。おとなしすぎるのが欠点。もっと強引さがほしい。愛称は「キンタ」。
〔愛知県名古屋市出身、中京商高卒、36年9月大崎電気工業入社。21歳〕

肩の強さはピカ一　FP 餅原正脩

〔横顔〕汐路中（名古屋市）一年のとき、ハンドボールを始めた。これは友だちにすすめられたもので、先輩にいじめられどおしだったとか。そのうち中京商から話があったので、中京商にはいった。36年のインターで優勝したときのメンバー。坂野（大崎電気、中京商卒）と一緒にライバル意識を燃やして練習に励んだ。坂野とは大の仲良し。スピードがあり、肩の強さにかけては大崎電気随一といわれている。ただ試合経験が少ないので、プレーに若さがある。FW出身なのでディフェンスが甘い。とくにマン・ツー・マンに弱い。「相手に抜かれたらどうしよう」という先入感が先に走ってしまうそうだ。
〔愛知県名古屋市出身、中京商卒、37年4月大崎電気入社、20歳〕

FP　餅原正脩

FP　金田純男

FP　宮原　宏

FP　井上素行

FP　新　繁樹

世界選手権の歴史

3月チェコで開かれる第5回男子7人制世界選手権大会に日本が2回目の出場をする。日本はこれまでにこの大会を含め男女4回にわたって「世界選手権」に出場している。「世界選手権」が日本のハンドボール界に身近かなものになったのはここ一、二年のこと。そこで『世界選手権の歴史』をたどってみることにした。

国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）の主催する「世界選手権は現在五つある。

男子室内（7人制）
男子フィールド（11人制）
女子室内（7人制）
女子フィールド（11人制）
学生（7人制）

である。

このうち最も伝統の古いのは、昨年スイスで開かれた『第6回男子フィールド選手権』である。昭和13年に第1回大会が行なわれている。

しかし、男子室内も今春で第5回と回数こそフィールドにおよばないが、その第1回はやはり昭和13年である。ハンドボールの世界選手権は7人制も11人制も同じ年に発足したことになる。室内ハンドボールが戦後の誕生だという印象が日本などには強い。7人制の競技規則が公認されたのは、昭和13年であり、その年に早やばやと世界選手権が行なわれた。

一方女子の場合は比較的歴史が浅く、フィールドは4回、室内は2回を数えているだけ。ハンドボールが元来女子の競技であることを考えるとちょっとおもしろい。

これは発祥国ドイツ以外は男子のスポーツとして伝えられ、発展してきているからであろう。

ハンドボールがオリンピック種目であることを知っている人は少ない。

昭和11年のベルリン大会で行なわれていらい、陽の目を見ずにいるのだから無理もない。

ここで気がつくことはハンドボールは世界選手権の開催よりも、オリンピックに採り上げられたことの方が早かったということである。

「オリンピック・ハンドボール」にとって惜しまれるのは、続く昭和15年の東京大会で実施が決まっていながら第2次世界大戦のため流会となったことだ。

ベルリン、東京と二期連続オリンピック種目として採用されていれば、オリンピックにおけるハンドボールの立ち場はそれ以後もかなり有力になったであろう。

ベルリン大会以後、オリンピックでハンドボールが行なわれたのはヘルシンキ大会の開会式後、フィンランドとデンマークがエキシビションを行なった記録があるだけだ。

世界選手権五つのうち、学生大会は昨春発足したばかり。女子のフィールドは現在第4回まで数えられているものの、各国の比重は7人制（室内）にかけられており、斜陽である。

やはり最大の関心が払われているのは、時流にのっている室内の二選手権と伝統の男子フィールドということになりそうだ。

特に室内は国際的にますます発展しているようで、参加希望国も増すばかりといわれる。

フィールドの衰退から室内を制した国を、ワールドチャンピオンと呼んでもいっこう差しつかえあるまい。

フィールドの場合はドイツが圧倒的に強く、過去6回のうち第3回大会に不出場以外は5回とも選手権を獲得。ハンドボールの祖国にふさわしい実績を残している。

室内となるとドイツは第1回大会に優勝しただけ。

屋外ハンドボールの将来

西独週報から

さきに開催された屋外ハンドボール世界選手権大会で、アメリカ、イスラエルの初参加をみたというものの、スカンジナビア諸国からの参加は全くなかった。わずか8チームの間で試合が行なわれたにすぎなかった。このようにヨーロッパでは最近屋外ハンドボールが衰退しつつあるような兆候がみられる。その将来についてさまざまの観測が行なわれている。とくに西独ではこの大会で東独に決勝で敗れるという予想外の結果が生れた。屋外ハンドボールの将来について関係者の間に、また一般愛好者の間には悲観、楽観の議論が出ている。たとえば屋外ハンドボールを将来においても存続させるためには、ルールの改正が必要である。そのために専門家でない一般愛好者も、積極的にルール改正の研究をすべきであるとする意見。どのようなルール改正にも反対であるとする意見などが活発に述べられている。関係者の間では悲観論者のいうように、それほど早く屋外ハンドボールが失なわれてしまうということはあるまいとみている。

このような議論の中からさらに二つばかりの見解を取り上げてみる。まず「ハンドボール週報」の寄稿者で、ハンドボールに精通しているジークフリード・ペリー氏は「将来の屋外ハンドボールの存否は当然ルール改正に関係を有していること。ルール改正の研究を直ちに始めること。屋外ハンドボールを廃止しようというポーランドの提案は、それだけではなんの利益にもならないこと。ルール改正があっても西独チームの強さには影響を与えることはないであろう」と述べている。

また「ハンドボール週報」の一読者であるラインハルト・ドリリンク氏は、世界選手権大会における西独チームの敗因を分析した。その一つにコンビネーションのとれた守備があまりにも攻撃に重点を置きすぎたことをあげ、東独の守備がこれと対象にシュートを妨害することができるていどに攻撃的なものであり、エリアを深く防御の体制を敷いていたとしている。しかし、同氏は、このような東独にみられる間をあけたマン・ツー・マンは、屋外ハンドボールの発展の方向にはマイナスであると言っている。そのほかオランダ、イスラエル、アメリカ、スイスなども、室内ハンドボール同様のゾーン・ディフェンスをとっている。これらは戦術的には必要であり、攻撃の場合にも役立つものではあるとしているが、必ずしも肯定はしていない。このような間のあいたマン・ツー・マンこそが、中盤戦がないといわれるハンドボールの欠陥を生むものなのであるという。中盤や13メートルから19メートルまでのゾーンにおける個人技を制限する方向での具体的なルール改正を提案している。さらにこのようなルール改正のみでは、この問題は解決するものではないとして、はでな攻撃や守備におけるより強力なコンビネーション、試合における緊張の高揚、熱心な普及活動などの必要を指摘している。

第2、第3回はスウェーデン、前回はルーマニアが優勝、各国のレベル均衡と普及度の広さがはっきりする。

ハンドボールはもはやフィールドスポーツではなく、室内競技だといわれるのも、こころあたりに一つの原因があるようだ。しかし

ドイツの孤守するフィールドもやはり伝統の競技会である。スイス、オーストリア、オランダなどはいぜん力を入れている。

特に昨年の第6回大会の開催を引き受けたスイスは第1回大会からの連続出場国であり、第1回2位、第2回3位、第3回3位、第4回2位、第5回5位、第6回3位と各大会とも上位を獲得。フィールドではドイツに次ぐ実力国といってもよいようだ。

しかし室内台頭の陰に回ってフィールドの世界選手権はやがては消えていく。寂しい運命が待っているのではなかろうか。

ドイツの有力対抗国であり、過去にスイスにまさる成績を残しているスウェーデンや、第5回大会2位のルーマニア（昭和35年に来日したチーム）などが、昨年の大会に姿を見せなかったのはそれを裏付けていよう。

歴代の各大会について触れるつもりでいたが、紙数に限りがきたようだ。

ここで、現在の各タイトルの保持国をあげて結びとしたい。ルーマニアが3タイトルを握っているのが注目され、特に女子はダブル・クラウンである。

いつの日か、日本が全タイトルを獲得することを祈り、とりあえず今春の男子室内にその名をきざみこむよう望んで筆をおこう。

▽男子室内　ルーマニア（昭36）
▽男子フィールド　東独（昭38）
▽女子室内　ルーマニア（昭37）
▽女子フィールド　ルーマニア（昭35）
▽学生　スウェーデン（昭38）

◇世界選手権日本代表壮行試合（2月1日・新宿体育館）

全日本 25（14―9 11―7）16 関東学生

話題のチーム —17— 田村紡の巻

◆…チームができたのは37年3月。当時三重県のある中学のハンドボールチームは圧倒的に強く、このチームが卒業期をえて解散の浮き目に立った。「このチームをどこかで引き受けてくれるところはないものだろうか」と関係者がやきもきしているとき、田村紡の田村社長（三重県体育協会長）がのり出し、選手を引き取ってチームを作った。これが田村紡チームである。ことしの3月で満2歳を迎える夢多きチームといっていい。

◆…練習は毎日午後3時から6時30分まで会社のグラウンドで行なう。名古屋からときどき宇津野年一氏（名古屋工大講師）がコーチにやってくる。部員は11人。みんな若さにあふれ、愛知紡に次ぐ東海地方の女子実業団チーム。寮生活のためチームワークがいい。基礎練習に重点を置いている。このチームの長所は若さ以外にないが、鈴木監督も「長所も欠点もこの若さ」といっている。監督の希望としては速攻のチームに育てることだそうだ。三重県には女子のクラブチームがないので、練習相手はいつも女子高校チーム。過去愛知紡と3回対戦して3敗している。愛知紡の亀岡監督は田村紡チームを見て「よく走るチームで、男子の中京商によく似ている。ランパスがうまく、動きがいい。若いチームなので非常にこわい」と評している。このチームがここまできたのは、やはり社長の思いやり以外にないといっていい。

フランスが6月来日

日本ハンドボール協会は昨年10月29日、山口県下松市で開かれた評議員・理事合同会議で『39年6月にフランスの〝ステラー・クラブ〟男女計35人の来日が本決まりになった』と発表した。〝ステラー〟は東京、大阪、名古屋など各地で男女それぞれ11試合を行なう予定。

（解説）ルーマニアの来日いらい五年ぶりのヨーロッパチーム。今回は女子も帯同するという豪華版。女子の外国チームの来日は初めてである。

〝ステラー〟はフランス切っての名門クラブチーム。フランス国内のタイトルを数多く保持しており、ヨーロッパ・カップでもつねに優勝候補にあげられている。

徳山高、表彰さる

38年の日本スポーツ賞ハンドボール部門賞（読売新聞社制定）は、協会の推薦で山口県立徳山高校ハンドボール部に決まった。徳山高は昨年10月の第18回国体（山口）で男女とも優勝した。同一校が男女に優勝したのは徳山高が初めてで、その輝やかしい成績が買われたもの。

なお同チームの監督は男子横瀬正寿氏、女子星井直氏（ともに日体大出）である。

静岡城北高も

また、全国高校選手権（女子）に2連勝した静岡城北高も、静岡新聞制定の「静岡スポーツ賞」の表彰を受けた。

沢田、青木、山崎が引退

愛知紡連勝の原動力となり、昭和37年ヨーロッパに遠征した全日本の主力ともなった沢田勝子、青木悠子、山崎鉦子の三選手が、昨秋国体終了後に引退した。愛知紡がにくまれるほど強かったのは、彼女らの抜群の技術、気力、それにすぐれたハンドボールセンスによるところが大きい。

まだまだ第一線でプレーが出来る力を備えているだけに引退は惜しい。彼女らの今後にハンドボールで得た栄光以上の幸福が待っていることを祈ってやまない。

（杉）

日韓高校親善大会

韓国、5勝1敗の成績

愛知、大阪ともに敗退

韓国高校（男子）チームは昨年11月28日羽田着のノースウエスト機で来日、29日の明星高（東京）との第1戦を皮切りに、水戸、名古屋、神戸、大阪、北九州市小倉の各地で6試合を行なった。韓国は第1戦を失ったが、第2戦から勝ち続けて5勝1敗の成績をあげた。同チームは12月7日小倉港発の「なにわ丸」で帰国した。

大会前の予想では日本チームが全勝するといわれた。第1戦の対明星高戦では明星高のペースとなり、韓国は手も足も出なった。ところが第2戦以後は韓国のワンサイドとなり、高体連関係者をあわてさせたほどである。たった1週間のうちに日本は韓国チームに追い抜かれた形となった。（注＝第1戦の個人成績なし）

明星、韓国を破る

▽第1戦（11月29日、東京体育館）

明星（東京）19（6−4 / 13−7）11 韓国

〔評〕韓国は50秒に柳のカットからの単身ドリブルでダッシュして先取点をあげた。このあと1分明星はポストを生かした広野のアンダーシュートで1−1。その後両チームとも堅くなってちぐはぐなプレーを繰り返した。それにつまらないミスがあった。明星はいちど成功したポストプレーを使おうとした作戦はよかったが、みのらなかった。カットインやリターンによるプレーがなく、ディフェンスがエリアラインにさがったときに放つミドル、ロングがよく決まっていた。それは韓国の1−5ディフェンスにたいして当然の結果といえる。ポイントゲッターであり、ロングシューターの旗野が、なぜロングを打って韓国ディフェンスを前に引っ張り出せなかったか。ポストプレーはサイドからの確実なシュートとロングプレーの相関において成功するものである。韓国の攻撃は明星の2−4ディフェンスに接近しようとせず、いたずらに確率の少ないロングを打つだけ。切り込みもなく無策の連続だった。後半になると両チームとも落ち着いてきた。韓国は長身の金相哲にボールを集めて打たせ、明星をびっくりさせた。しかし韓国の攻撃はこれだけしかなかった。明星は旗野のシュートが決まり出し、サウスポーの岡部がチャンスメーカーとなって韓国ディフェンスをゆさぶった。それにGK綿貫のファイン・プレーはよかった。ただ明星はパスミスが多く、突っ込みがふじゅうぶんだった。

韓国で目だったことは敏速な動き、出足のよさ、上体の柔軟性である。韓国のプレーでちょっと気になったことがある。それはゴールエリアライン付近のゴールポスト前の位置で、2人の選手がしゃがみ込んでしまうことだ。「ロングシュートのサインであり、ブロックプレーでもある」と言っているが、明らかにディフェンスの足首を押えている。それに危険でもあり、フェアなプレーとはいえない。ディフェンスは一応フォーメーションを整えているものの、サイドがノーマークの状態である。それに50分間いちども切り込みを見せなかったのは感心できない。シュート率は明星が3割7分、韓国か1割4分。韓国から学びとるものは一つもなかった。

（岡村昭二）

韓国、初の勝利

▽第2戦（11月30日、水戸市茨城県立スーポセンター）

韓国 38（22−10 / 16−8）18 茨城県選抜

〔茨城〕

	氏名	S	得	反
	高橋（水戸工）	8	4	1
	大山（真壁）	2	0	2
	金井（水戸一）	0	0	0
	橋本（麻生）	11	5	3
	鈴木（潮来）	2	1	0
	星野（石岡一）	0	0	1
	飯島（土浦一）	0	0	0
	加生（土浦工）	7	1	0
	小島（麻生）	20	5	2
	飯村（笠間）	1	0	1
	小泉（竜ケ崎一）	0	0	0
	外岡（水戸工）	3	1	0
	兼子（土浦工）	2	1	0
GK	須藤（笠間）	0	0	0
GK	黒沢（水戸工）	0	0	0
7mスロー	4	56	18	10

〔韓国〕

	氏名	S	得	反
	李炫鐘	5	1	3
	尹常林	5	1	3
	柳在男	2	1	1
	全福秀	17	13	1
	朴鐘甲	20	10	5
	金相哲	6	3	2
	文鏞華	7	4	1
	洪成萬	9	5	1
	金広錫	1	0	0
	金性淑	0	0	0
	崔伯均	0	0	1
	金丘	0	0	0
	朴成斌	0	0	0
GK	崔大鎬	0	0	0
GK	趙永寿	0	0	0
7mスロー	1	62	38	18

〔評〕韓国はスローオフからすばやい攻撃をしかけ、茨城バックスがまだ落ち着かぬすきをついて朴がすばらしいロングシュート。あっさり先取点をあげた。その後も韓国はダブル・ポストプレーで茨城バックスをエリアにくぎづけ

にして、豪快なロングシュートを放って試合のペースを握った。

○…一方の茨城は主軸の飯村、橋本らが韓国の粘りのあるディフェンスに動きを止められた。わずかに橋本―小島の麻生高コンビのプレーと、高橋のサイド攻撃で15分11―7と迫ったのが精いっぱい。前半ダブルスコアとなってしまった。

○…後半茨城は2―4のディフェンスを敷いて、韓国の金相哲、朴、洪らのロングシュートを食い止めにかかったが、韓国ベンチもすかさず、金、柳らを軸にしたローリング・オフェンスによるサイド攻撃、カット・インに転じ、試合の主導権を離さなかった。

茨城もポスト・プレーで得点をあげたものの、厚い韓国ディフェンスにすっかり速攻をとめられてしまった。しかもしきりとメンバーを代えたことからコンビがくずれてパスの失敗が多く、逆襲を許したのはまずかった。

○…韓国の勝因は前半、試合のペースを握ってから選手に余裕が出て伸び伸びとプレーしたことにある。

日韓に技術的な差はあまり感じられなかったが、脚力、シュート力、特に強引なロングシュートには驚いた。なおこの試合は茨城県下で初の国際試合だった。

(黒沢博美・茨城高校選抜軍コーチ)

名古屋選抜敗れる

▽第3戦(12月3日、名古屋金山体育館)

韓国 24 (13―12, 11―7) 19 名古屋選抜

〔名古屋選抜〕	S	得	反
山田(桜台)	4	4	3
小林(桜台)	3	0	6
小島(中京商)	6	3	3
西尾(中京商)	9	5	2
安藤(中京商)	11	2	7
神谷(桜台)	19	5	2
野田(愛知工)	2	0	0
GK 平松(中京商)	0	0	0
GK 山村(桜台)	0	0	0
計	54	19	23
7mスロー	4		

〔韓国〕	S	得	反
金相哲	23	4	3
朴鐘甲	5	1	6
文鍾華	6	2	2
洪成寿	9	4	4
尹常林	0	0	3
柳在男	15	10	4
全福秀	2	0	1
金広錫	5	3	2
趙永寿	0	0	0
GK 崔大鎬	0	0	0
計	55	24	25
7mスロー	1		

〔評〕 桜台(全国高校優勝)と中京商(全国高校および国体準優勝)を主力とした名古屋選抜は「全日本高校」ともいえるメンバーだった。しかし韓国は予想以上にスピードのある攻撃を展開、主力選手が試合から遠ざかって試合の勘が鈍っていた全名古屋を圧倒した。両チームの出足は悪く、まずい攻撃、守備を繰り返して前半10分で3―3。

このあと韓国が落ち着きを取り戻したのに対し、名古屋は堅さがとれなかった。韓国の激しい当たりと、出足のよいカットは戦前から予想された。が、名古屋は不調から抜けようとあせり、相手のリーチを考えぬパスを繰り返しては逆襲を受けた。これで韓国はすっかり試合のペースを握った。

その立役者は柳在男だ。とにかく、すばしっこい。

出足のよさ。それに攻めるときの位置の取り方が実にうまい。柳のすぐれたテクニックに、桜台トリオも中商トリオも完全に食われた形だった。

○…前半の4点差は名古屋の実力からすれば、そう負担ではなかったはずだ。しかし、後半開始から立て続けに3点を失い、14―7とされたのは痛かった。このうち2点はFTからの失点。マークの甘さもあったが、韓国の調子にのったダイナミックなシュートに圧倒されたといってよい。10分を過ぎてようやく名古屋のコンビ・プレーが生きてきた。

特に安藤の好配球を西尾、小島が生かした中京商コンビの連係プレーと、神谷のタイミングのよいシュートはさすがだった。攻撃に力を出しすぎたか、点差をつめてもディフェンスが無力で、GK崔大鎬のうまいボール出しから韓国に反撃されると簡単に失点。

せっかくの追撃も20分17～20まで終わってしまった。

○…名古屋は韓国ディフェンスのくずれをさそうため、むだなボール回しが多く、シュートチャンスをつぶしていた。

名古屋の陣容がトッププレヤーをそろえた全日本クラスなことから、この敗戦は一応「問題」とされていい。三年生選手がすでにシーズン・オフであったことなどハンディもある。韓国の進歩は認められるが、「追いつかれた」感じはあまりしない。しかし韓国選手の恵れた体力と体格。そしてその利点をフルに生かしたボールに対する執着力は、6月の学生選抜のときも、今回もはるかに日本チー

すぐれた韓国高校の体力

敗因をさぐる

日本チームがこう立て続けに負けるとは思わなかった。

韓国高校のレベル向上は伝えられていたものの、日本の1勝5敗はあまりにもみじめである。日本チームの主力(三年生)がすでにシーズンオフであったことが、いちばん大きな敗因とみる。一昨年全日本高校が訪韓したとき、「三年ぐらい」といわれていた「差」が、急速にせばめられたこともいなめない。

しかし負ける相手ではない。敗因は前述のほか、第1戦(明星高校)以外すべてにわか造りの混成チームだったこともあげられよう。事実どのチームも攻防両面でタイミングの悪さが目だち、相手にみすみすチャンスを与えていた。韓国チームから見習わなければならないのは、ボールに対する執着力である。粘りっこいばかりのボールへの執着心は、先天的にすぐれた精力をうしろ立てにしてすばらしい威力となっている。

「7人制研究」もじゅうぶんなようだ。たとえば彼らの見せた「守から攻への転換」は実にスピーディーであり、理論的であった。7人制の本質を極めている点では、日本チームよりも上回っているのではないかと思えたほどである。

それともう一つ。技術的にも個人技にもすぐれていたと見られる名古屋選抜、大阪選抜、兵庫選抜が敗れたのは「体力差」「体格差」である。

彼らの「力」と「体」に日本チームの「技」がねじふせられたことは大きな問題である。

彼らがやがて韓国ハンドボール界の主力となるとき、日本のテクニックが「力」の前に屈することを暗示しているのではなかろうか。

負ける相手ではない――役員も選手も私自身もそう思う。

しかし、いつまでも優位に立ちつづけ得る相手でないこともさとったはずである。(駒沢球治郎)

ムを上回るものである。この「力」と「粘り」は、やがて日本球界にとって恐しい威力に代わることになるのではないだろうか。（杉山　茂＝NHK運動部）

韓国、兵庫も破る

▽第4戦（12月4日、神戸王子体育館）

韓国 22（12―11、10―8）19 兵庫選抜

反	得	S	〔韓国〕		〔兵庫〕	S	得	反
2	3	3	文鐘華		岩瀬（兵庫工）	10	5	0
3	0	2	洪成萬		伊藤（明石）	3	1	0
2	0	1	尹常林		竹内（兵庫工）	11	5	7
4	4	6	柳在男		室本（尼崎工）	0	0	1
2	10	23	金相哲		黒田治（三田）	0	0	1
7	3	6	朴鐘甲		大原（明石）	11	5	2
4	0	5	全福秀		小坂（兵庫工）	1	1	4
2	2	8	金広錫		鮎川（兵庫）	1	0	2
0	0	0	金伯均		山部（甲陽）	1	1	0
0	0	0	趙永寿		森田（兵庫工）	0	0	0
0	0	0	金丘		塚越（尼崎工）	1	1	1
0	0	0	朴成斌		直井（武庫工）	0	0	0
0	0	0	金性淑		黒田庄（三田）	0	0	1
1	0	0	崔大鎬	GK	岸（尼崎工）	0	0	0
0	0	0	李炫鐘	GK	松田（明石）	0	0	0
27	22	54	3	7mスロー	2	39	19	19

〔評〕韓国は名古屋選抜に勝ってますます自信をつけ、試合前に30分間激しいウォーミングアップ。兵庫は長身大原のシュートで2―0とリードした。3分をすぎると韓国は試合になれてきた。カット戦法から速攻に移り、ゴール前のセットオフェンスでもボールをよく回し、金相哲が強引にシュートして得点を重ねた。兵庫は速攻もセットオフェンスにも動きがよくなかった。後半体力にまさる韓国は相変わらずスピードのある攻撃と、キープ力によるうまいボールさばきで加点した。兵庫はポストプレーを生かして18分に2点差に迫った。しかし速攻ができないため、逆転するに至らなかった。

韓国は柳在男を中心に攻撃、防御に組織力を生かしていた。それにのボール出しがよかった。また個人のボールキープ力がすぐれていた。兵庫はピックアップ・チームのため、国際試合に対する勝利根生がなかった。（村田　弘）

大阪も敗れる

▽第5戦（12月5日、大阪府立体育会館）

韓国 23（11―9、12―8）17 大阪選抜

反	得	S	〔韓国〕	〔大阪〕	S	得	反
0	0	0	金伯均	多賀谷（寝屋川）	1	0	1
2	4	8	金広錫	柴田（寝屋川）	1	1	2
2	4	8	朴鐘甲	北村（寝屋川）	6.	4	2
1	4	5	柳在男	大西（寝屋川）	9	4	1
2	3	6	洪成寿	木野（寝屋川）	4	2	1
3	3	6	文鐘華	新堂（寝屋川）	1	0	1
2	4	19	金相哲	水口（東住吉）	5	5	2
1	1	2	金性淑	平井（東住吉）	0	0	0
0	0	0	朴成斌	鈴木（東住吉）	0	0	0
0	0	0	金丘	西口（鳳）	0	0	0
0	0	0	李炫鐘	稲垣（鳳）	1	0	1
0	0	0	全福秀	吉村（桜塚）	1	0	0
0	0	0	尹常林	園井（東住吉）	1	1	1
0	0	0	趙永寿	田波（桜塚）	0	0	0
0	0	0	崔大鎬	川口（寝屋川）	0	0	0
13	23	54	3　7mスロー　4		30	17	12

〔評〕韓国は終始リードを続け、全く危なげなく大阪を破った。内容的に見ても韓国のワンサイドであった。韓国は立ち上がりから積極的に攻めたが、15分まで不運にも得点に結びつかなかった。17分ごろから連続点をあげ、前半優位に立った。とくにスターティング・メンバーが全員得点したのはりっぱだった。単独ドリブル、フェイントからのシュートはすばらしかった。エース金相哲はやや個人プレーに走りすぎたようだった。大阪は少しもよいところがなく、相手を追うことに精いっぱい。

韓国の全選手は基礎技術を忠実に守り、自分の体力をじゅうぶん生かしていた。ディフェンスのカットの出足、カットからの速攻、GKのパスアウトからの速攻はよかった。後半10分に3点差に迫られたが少しもあわてず、自己のペースを忘れずに試合を進めていた。（中出盛雄）

韓国、5連勝

▽第6戦（12月7日、北九州市小倉体育館）

韓国 37（21―12、16―8）20 福岡選抜

〔評〕試合開始直後、韓国の柳は福岡のパスミスをカットし、そのままダッシュして先制点をあげた。その後もポストプレー、ロングシュートなど変化のある攻撃で、福岡ディフェンスを破り優位に立った。福岡はボールが手につかず、パスミスが多かった。攻め込んでも攻撃が単調で、フットワークのよい韓国の守備ラインをくずすことができなかった。この攻撃の巧拙が勝敗に大きく影響し、前半15分で試合は完全に韓国のペースとなってしまった。

得	反	S	〔韓国〕		〔福岡〕	S	反	得
0	5	6	文鐘華		宮島（博多工）	0	0	2
2	0	0	洪成萬		早川（博多工）	0	0	0
0	0	0	尹常林		友広（小倉工）	16	8	3
4	9	12	柳在男		古川（博多工）	7	3	2
1	11	11	金相哲		山崎（博多工）	1	0	5
4	3	9	朴鐘甲		有元（小倉工）	14	2	4
0	0	0	全福秀		山本（小倉工）	5	4	2
1	6	8	金広錫		上岡（田川工）	7	3	1
3	0	0	崔伯均		坂本（八幡工）	0	0	0
0	0	0	趙永寿		須河内（香椎）	0	0	0
4	2	3	金丘		小室（宗像）	0	0	0
2	1	2	朴成斌		津留（明善）	0	0	0
0	0	0	金性淑		杉村（小倉西）	0	0	0
0	0	0	崔大鎬	GK	泉（小倉工）	0	0	0
0	0	0	李炫鐘	GK	天野（博多工）	0	0	0
21	37	51	3	7mスロー	2	50	29	19

○…後半にはいっても韓国の攻撃は好調。中でも金相哲の長身を利したロングシュート、金広錫、柳らの機敏な動きは見事だった。後半9分24―10と点差が開いてから、福岡はようやくボールが手につき始めた。GKからのボールが速攻に結びつき、友広、上岡らがゲットし、失いかけた試合の興味を盛り上げた。15分を過ぎてからは互いに速攻の応酬となり、韓国は金相哲、福岡は友広にボールを集めて両選手の打ち合いとなった。福岡のこの攻撃がもう少し早く出ていれば、試合はもつれていたことだろう。

○…韓国の攻撃範囲が広いのに比べて、福岡は中央突破を多用しすぎた攻撃力の差にあった。それにしても韓国選手は想像以上に基礎技術をマスターしていた。特に金相哲のフェイントシュート、柳のすばらしい脚力、GK崔の好判断は日本選手を圧するもので、金広錫の攻撃力もまた印象に残るものであった。（小袋是郎・北九州大会委員長）

世界選手権獲得に努力

▽韓国監督朴淳哲氏の話

韓国高校チームが初の海外遠征で5勝1敗の好成績をあげた。これは全く予想しなかったことである。日本チームに対して勝つには勝ったが、試合内容を見ると、かならずしも勝ったとは思っていない。数々の新技術の修得、審判技術、大会運営の点で学ぶところが多かった。こんご両国の交流によりアジアにハンドボールの確固たる地位を築きたい。このためには日本とともに大いに協力し、互いに世界選手権獲得に努力しようではありませんか。

滞日中に受けた関係者のご厚意に深く感謝します。

新シーズンの協会に望む

「思いつき」政策に反省を！

杉山茂

2月10日に全日本実業団選手権大会が終わり、38年度のスケジュールが完了した。そこで私は39年度のハンドボール界にぜひ望みたいことがあるので書いておこう。

これはことしに限ったことではないが、ハンドボール界の首脳者はもう少し勉強してもらわないと困る。ハンドボール協会のやっていることぐらい首尾一貫していないものはない。あまりにも『思いつき』で物ごとをやるせいだ。真剣になってハンドボール界の百年の計を建てているのかと、いつも疑わしくなるようなことばかりである。

たとえば最近の愚策の代表的なものは、全日本総合の予選制度の内容と国体教員の部の拡張だ。

前者については事あるごとに投稿したが、そのつど陽の目を見なかった。

昨年は予選で負けたチームを『協会推薦』ということで出場させ、一部の失笑、苦笑を買った。なんのための予選制度かといわれても仕方があるまい。

大体「その他優秀チーム」(こんな言葉がふしぎ）を協会推薦として若干出場をさせるなどとはナンセンスだ。

この制度を作ったとき、某常任理事は『よい方法でしょう』とむしろ得意気だった。バカらしい…。

国体の教員部門が今年の大会(6月・新潟)では大幅にワクが広げられ、30チームが出場できる。

このため一般男子が10チームに減ってしまった。

球界の発展の貢献したクラブチームは、いまや衰退の一途である。

実業団の発展の影響だが、クラブチームにある優秀なプレーヤーを忘れてはなるまい。そのクラブチームの唯一の目標が「国体」である。ましてや国体は社会人のスポーツ祭典である。

教員部門と一般部門を分けたのは一応「よし」としても、前者を主とするのは国体の本旨にもとるのではなかろうか。

実業団の充実でクラブチームが押しのけられるのは仕方がない。

しかし机上のプランでクラブチームの生きる道が押しのけられるのは、あきらめられないことだ。

フランスチームが6月に来る。7人制統一後初のヨーロッパチームの来日は楽しみだ。

しかし、来日時期は「この期」をおいて他になかったのだろうか。

オリンピックを前にして、しかも大相撲、プロ野球とビッグエベントめじろ押しの6月。マスコミの関心も薄らぐのではなかろうか。

4回目のヨーロッパ遠征をはじめ、今シーズンも話題だけは豊富のようだ。世界選手権で宿願の勝利をあげられそうだとも聞く。しかし、協会自体の成長は一向に見えない。創立いらい27年。人材が少ない。広く、深い視野で仕事をそろそろしてもよいのではなかろうか。

技術研究室

シュートの分析（第八回）

北川　浩（熊本市立高監督）

練習せよポストプレー

私は山口国体の試合を見て、各チームのシュートをいろいろ分析してみました。この分析方法はルーマニア体協、ルーマニア・スポーツ病院がこのような分析方法で、世界選手権参加国のシュートを研究していました。このデーターによりルーマニアは試合ごとにマークする選手をちゃんと知り、攻撃方法、防御方法を変えていました。私のデーターは8試合だけですが、シュート500、ゴールイン156、成功率・312の記録がでました。

各チームでもこういった分析方法で相手チームを研究するのもよいかと思います。

なお男子の氷見クラブ対熊本クラブの記録は2—2のタイスコアのあと、20分間のものです。

◆シュートの種目

① ジャンプ・シュート
② ランニング・シュート
③ スタンディング・シュート
④ 特殊なシュート（バック、アンダー）
⑤ フェイント・シュート（自分で相手を抜いたとき）
⑥ プロンジョン・シュート（倒れ込みを含む）
⑦ 速攻によって生じたシュート（ノーマークを含む）
⑧ ポストプレーによるシュート
⑨ フリースロー
⑩ 7mスロー

① ジャンプシュート

いちばん多く用いられるシュートである。ゴールエリア近くでジャンプしたときはよく決まる。そのためには㋑いいパスを送る。㋺フェイントで防御していているものを避けることである。フリースロー・ライン外からのシュートは、ゴールからはずれるか、GKにとられる率が多い。女子世界選手権でフリースロー・ライン外からのシュート率はシュート128、得点35、率は・273である。別表でも・213の低率となっている。

② ランニング・シュート

別表の数字はサイドからのシュートが多かったので、得点が少なかった。中央からのシュートは、ロング・シューターによるものが多く、フリースロー・ライン外から打っているのでGKに取られやすい。

③ スタンディング・シュート

試合中に立ったままシュートすることが、いかに無意味であるかがこれではっきりわかる。スタンディング・シュートを練習しているチームはないと思う。全シュートの1割近くも行なわれているのは㋑防御力が強いので攻撃の動きを止められてしまう。㋺シュートにはいるときの判断が悪い。㋩GKがうまいことなどがあげられる。

④ 特殊なシュート（アンダー・シュート、バック・シュート）

この大会中は非常に少なかった。各チームはもっと注目していいと思う。

⑤ フェイント・シュート

ローリングの場合でも速攻の場合でも、ノーマーク以外の場合はフェイントでシュート体勢をつくる必要がある。フェイントで相手を抜けば非常に有利となり、シュートもよくはいる。「じょうずな選手」といわれている人はこのフェイントを使かっている。

⑥ プロンジョン・シュート（倒れ込みを含む）

このシュートの利点はゴールに近く、GKにボールを離す位置を隠せることである。そのためかサイドからのシュートもよくはいる。ランニング・シュートではいらないサイドでも、このプロンジョンならはいる。外国では非常に多く使われ、7mスローはほとんどこのシュートである。世界選手権では64回のうち成功した32回（・500）の高率である。

各チームのシュートの種類

種類		大洋	田村紡	熊本クラブ(男)	氷見クラブ(男)	明善高	徳山高	東京レナウン	愛知紡	大洋	大崎電気	熊本教員(男)	愛知教員(男)	大洋	東京レナウン	愛知紡	大崎電気	
対戦チーム		田村紡	大洋	氷見ク	熊本ク	徳山高	明善高	愛知紡	東京レナウン	大崎電気	大洋	愛知教	熊本教	東京レナウン	大洋	大崎電気	愛知紡	〔計〕
① ジャンプ	S	4	6	4	5	6	22	12	3	4	7	11	8	21	19	8	10	150
	得	1	0	0	1	5	6	1	1	0	0	3	1	3	3	3	4	32
	率																	0.213
② ランニング	S	2	4	1	2	2	0	4	13	1	7	3	12	2	0	6	2	57
	得	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	2	3	1	0	1	0	10
	率																	0.213
③ スタンディング	S	3	11	2	2	7	2	0	2	0	0	0	3	5	0	1	4	42
	得	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	1	7
	率																	0.167
④ アンダーバック	S	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	得	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	率																	1.000
⑤ フェイント	S	3	1	3	3	4	0	5	4	3	1	9	1	0	0	0	0	37
	得	0	0	1	2	1	0	3	3	3	0	7	1	0	0	0	0	21
	率																	0.567
⑥ プロンジョン	S	2	3	1	3	0	0	2	1	8	1	4	2	3	4	0	2	36
	得	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	3	0	3	2	0	1	11
	率																	0.305
⑦ 速攻によるもの	S	7	0	0	0	0	0	3	1	2	1	5	4	0	0	2	9	34
	得	2	0	0	0	0	0	2	0	1	1	4	4	0	0	1	1	16
	率																	0.471
⑧ ポストプレー	S	1	0	0	0	0	2	1	0	1	2	1	3	0	0	0	0	11
	得	1	0	0	0	0	2	1	0	1	2	1	2	0	0	0	0	10
	率																	0.909
⑨ フリースロー	S	9	4	3	0	3	3	14	10	3	2	7	2	7	10	12	3	92
	得	3	1	0	0	0	1	2	2	2	0	3	1	2	1	2	1	21
	率																	0.228
⑩ 7mスロー	S	4	3	2	2	0	2	3	1	2	3	3	2	3		2	6	38
	得	3	2	1	2	0	0	3	1	1	2	2	1	3		1	3	25
	率																	0.657

⑦ 速攻によって生じたシュート（ノーマークを含む）

速攻はミスが多く、シュートまでに行く途中で自滅したのが目立った。防御の弱い相手には勝負をきるが、互角のチームでは得点をつけるまでの力はない。ただ相手をびっくりさせる効果はある。速攻だけでは優勝はできない。

⑧ ポスト・プレーによるシュート

巧妙なパスを受けてシュートした場合、防御側はどうしようもない。またGKも相手の動きを見るのがむずかしく、ほとんど得点になっている。チームゲームのおもしろみはここにあるといってい い。11本のうち10本（・909）決まっている。ポスト・プレーに力を入れて練習した方がいい。シュートもプロンジョン、バック、サイドステップ・シュートなどを行なえば自由な範囲ができてくる。

⑨ フリースロー

意外に得点にならない。大洋—田村紡戦で大洋が9本のうち3本（・333）しか決まっていない。シュートする選手が相手に近ずきすぎるのでカットされやすく、コントロールも悪くなる。ポイントに立つ人は、相手の防御列を見ずにパスしている。

⑩ 7m・スロー

ディフェンスのフットワークが悪いと反則を犯して、7mスローをとられる。審判はスローの規準を正しく保たねば、勝負を左右する大きなシュートルになってしまう。

（写真はドイツの週刊誌から）

両陛下に勝敗を電話で

楽書帳　第16回

鷲尾武治

▽…山口国体で天皇、皇后両陛下が下松市民体育館にお出でになり、女子準決勝のレナウン工業東京対愛知紡の試合をご覧になった。両陛下がハンドボールをご覧になったのは東京国体いらいのことである。二階の貴賓席からのり出すようにしてのご観戦。「天皇陛下に女子の試合をお見せしたいという関係者の要望があったので」というのでこの試合が選ばれた。高嶋理事長のご説明にいちいちうなずかれた。女子選手が猛スピードでゴールに殺到。勢いあまってゴールポストに強くぶつかったとき、両陛下から「あれでだいじょうぶなのかしら」と理事長にご質問。「普通の人ならけがをしますが、ハンドボール選手はふだんからきびしい訓練をしていますのでだいじょうぶです」とお答えすると、両陛下は「そうですか」と感心しておられた。試合の途中で両陛下はお帰りになったが、お帰りのお召列車の中で「あの試合はどうなったか」と宇佐美宮内庁長官にお聞きになった。同長官は列車の中から電話をかけて成績を聞き、すぐ両陛下にご報告した。（高嶋理事長から聞いた話）。

▽…昨年12月の全日本総合室内選手権大会に義宮さまがお出でになった。義宮さまはバスケットボールのファンであり、またご自分でもプレーされる。女子決勝大崎電気対大洋デパートの後半から男子決勝の終了まで熱心にご観戦。

試合中にボールが義宮さまのところへ飛んでいくと、ご自分でボールを取って選手にパスされた。お帰りの途中に「もういちどハンドボールを見たい」と東園侍従にお話になられたそうだ。

それはバスケットの場合、ボールを持っている選手が優先されるが、ハンドボールはボールを持っている選手のチャージングが反則となって、相手のフリースローになるのがおわかりにならないらしい。それにしても義宮さまがハンドボールをご覧になられたのは関係者にとってうれしいことである。

▽…大崎電気の女子がやっと優勝して全日本タイトルを取ったというので、その日の寮は夜おそくまで祝賀会。全国のファンから祝電が寄せられ、マネジャーの伊藤嬢が読み上げた。テーブルの上には〝七面鳥〟の丸焼きをはじめご馳走の山、山、山。男子チームも同席したが、3位のためこの日ばかりは女子に頭が上がらない。飲みたいビールも遠慮がち。そこは日本女性、気をきかして自分たちのテーブルにあるビールを男子のテーブルへ…。「やっぱり試合は勝たなきゃだめだな」――これは今野監督の弁。「こんなうまいビール初めてよ」――これは女子の宇井さんの弁。

時評

猛練習と気力の充実

＝山口国体から拾う＝

▽…上位チームによく見受けられたが、力のプレーに頼りすぎてうまみのあるプレーを忘れている。これは練習がマンネリズムになった結果だと思う。昨年4月から7人制に切り替ったことを理解し、もっと研究を積まねば進歩しないだろう。また北海道のチームが全部1回戦で敗れ去った。かっては上位に進出したこともあるのにどうしたことか。指導者の奮起を待つ。

▽…入場行進のとき選手の顔に生気がない。また練習をしてきたチーム、そうでなかったチームが一目でわかる。高い旅費を使い、遠い土地にやってきて1回戦で敗れ、あえなく帰郷するのは実にもったいない。猛練習を積んできたならまだいい。練習もじゅうぶんやらず、勤務を休んで慰安旅行気分で参加。「勝っても負けてもよいのだ」と勝負の世界を裏切るようなことは絶対になくしてほしい。一般男子、教員のゲームにハッスルしたプレーが少なく、点差が開くとゲームを投げてしまうチームもあった。へたでもいい。気力の充実したゲームをやらねばならない。

新潟国体に教員の部が府県対抗となる。教員はよく自覚してほしい。いまから練習を積み、指導者として恥かしくないプレーができることを望んでおく。その成果いかんが、今後のハンドボール界を発展させるきっかけとなるからだ。

▽…肉体的コンディションの調整はよかった。ゲーム前口先だけは気力とかファイトとか言っているが、内心ゲームに対する執念がたりない。ゲーム前にベンチを見ても落ち着いたようすがない。もっと精神的コンディションの調整をやらねばいけない。高校は大会前に中間考査があり、いろいろな面で悪影響していた。静岡城北高の敗因もここにあるのではなかろうか。

▽…パスの不正確が目立った。グラウンドがせまいから、もっと正確なパスを練習しなければならない。プレーするときに動いていない。ボクシングで足が止まるとダウンを食うと同様に動きが止まったら得点できない。プレーに瞬発力がない。ゴール前で相手に対する動作が悪い。またボールから眼を離してプレーするので、レンジャースプレーが起きる。その点中京商全員の基礎技術は見事であった。

▽…その場そのときに応じたインスタント的攻防が多い。チームの特徴を生かしたフォーメーションプレーを練習せよ。組織的な防御のまずさが敗因をつくっている。ゲーム中チームのリーダー（チャンスメーカー）に〝なれ〟〝つくれ〟〝知れ〟。静岡城北高がブロック・プレーをよく使っていたが、他のチームもやらなければならない。

◆訂正　15号16頁「時評」第3項11行目を次のように訂正します。
「徒歩計画は全日本学生の大会前からあったとか。慶大の出発した日は同大会の決勝の日である」

（ご観戦中の両陛下。ご説明するのは高嶋理事長＝下松市体育館）

第18回国民体育大会（山口県）

初の男女高校優勝・徳山高

天皇・皇后両杯とも山口が1位

第18回国民体育大会ハンドボール競技は38年10月28日から11月1日まで山口県徳山・下松両市で行なわれた。一般男子はことしから埼玉県代表となった大崎電気（埼玉）が3連勝、一般女子は熊本大洋デパート（熊本）がレナウン工業東京（東京）を押えて2連勝した。ことしから新しく参加した教員（男子）は大阪教員団（大阪）が初優勝した。高校の部は地元徳山（山口）が大会初の男女優勝の快記録をつくった。天皇杯得点、皇后杯得点とも地元山口が1位となった。なお天皇、皇后両陛下は女子準決勝のレナウン工業東京対愛知紡、大崎電気対大洋デパートの試合をご覧になった。

なお開会式で国体10回出場の三橋清一（函館サンダークラブ）石月譲二（清商クラブ）鈴木正明、斉藤一、浅野克彦（以上全愛知教員クラブ）、桜井直養（下関クラブ）、高島協助（熊本クラブ）の7人に日本体協会長賞が贈られた。

一般男子　大崎電気3連勝

▽1回戦

チーム	得点	前半	後半	延長	得点	チーム
三菱レイヨン大竹（広島）	18	6－6	12－5		11	商友会（岩手）
県工ク（兵庫）	28	10－3	18－8		11	金商ク（石川）
全神奈川（神奈川）	29	12－7	17－10		17	岡野バルブ（福岡）
奈良ク（奈良）	18	5－4	13－5		9	湯沢ク（秋田）
桜丘会（愛知）	18	7－8	8－7	2－1、1－1	17	芝浦ク（東京）
氷見ク（富山）	18	7－5	11－6		11	高松ク（香川）
熊本ク（熊本）	22	9－5	13－5		10	足利球友会（栃木）

▽2回戦

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
塩山ク（山梨）	15	6－7	9－5	12	柏崎ク（新潟）
下関ク（山口）	26	12－3	14－3	6	那賀ク（和歌山）
清商ク（静岡）	36	16－5	20－5	10	安積ク（福島）
京都ク	26	16－4	10－7	11	函館・サンダーク（北海道）
佐野工ク（大阪）	24	10－6	14－6	12	天城高OB（岡山）
桐生ク（群馬）	29	8－9	21－5	14	鹿児島ク（鹿児島）
北農ク（長野）	16	5－4	11－10	14	TG会（宮城）
大崎電気（埼玉）	25	14－6	11－7	13	三菱レイヨン大竹
全神奈川	18	11－6	7－9	15	県工ク
桜丘会	35	19－7	16－3	10	奈良ク
氷見ク	15	6－4	9－6	10	熊本ク
下関ク	32	18－7	14－6	13	塩山ク

▽準々決勝

チーム	得点	前半	後半	延長	得点	チーム
京都ク	16	6－7	7－6	0－1、1－0、0－0、2－0	14	清商ク
佐野工ク	23	11－9	12－5		14	桐生ク
住友化学菊本（愛媛）	32	14－8	18－5		13	北農ク
大崎電気	36	19－8	17－5		13	全神奈川
桜丘会	22	11－8	11－5		13	氷見ク
下関ク	14	6－5	3－4	0－0、1－1、1－1、3－2	13	京都ク

▽準決勝

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
住友化学菊本	25	11－6	14－7	13	佐野工ク
大崎電気	21	10－7	11－8	15	桜丘会

反	得	S	（大崎）
0	0	0	高橋
4	0	4	田口
5	3	6	北村
7	4	5	金田
3	5	8	宮原藤
8	6	13	竹野
2	0	3	村上
3	3	5	井上
0	0	0	坂野
0	0	0	福本
32	21	44	7mスロー 3

（桜丘）	得	反	S
小川	14	4	4
伊藤	2	0	5
角井	4	1	2
高村	0	0	0
小林	2	0	5
尾之内	19	7	5
山田	10	3	3
榎		0	0	2
GK 渡辺	0	0	0
7mスロー 2	51	15	26

〔評〕桜丘会は前半3分尾之内のシュートで先行、大崎は7分、10分30秒、12分に竹野がゲットして3－3とした。このころから1点を争うゲームとなった。前半桜丘会の善戦はほめていい。後半大崎は竹野、宮原藤、桜丘会は尾之内、山田、小川の打ち合いとなったか、桜丘会はスタミナの不足が目立ち大崎に敗れた。

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
住友化学菊本	22	8－6	14－10	16	下関ク

（住友）	S	得	反
中村	0	0	2
上田	2	1	10
村田	0	0	2
松井	7	5	7
長嶺	2	2	2
加藤	10	7	4
北山	11	5	2
伊藤	6	2	2
中野	1	0	6
GK 宮崎	0	0	1
GK 夏井	0	0	0
7mスロー 1	39	22	38

反	得	S	（下関）
5	0	3	村岡
6	0	1	中村
6	1	2	番野
6	7	11	吉村
2	1	3	田中
2	5	8	平岡
0	0	0	坂田
1	2	2	桜井
0	0	0	西山
0	0	0	浴（GK）
0	0	0	藤田（GK）
28	16	30	7mスロー 6

〔評〕前半はシーソーゲームとなり住友が2点リードのまま前半を終わった。後半になると住友は加藤、北山に打たせたのがよく、10分までに15－8とリードしそのま

ま下関を押えた。両チームともディフェンスのプレーが荒かった。

▽3位決定戦

下関ク 23（9―7、14―9）16 桜丘会

▽決勝戦

大崎電気 29（13―4、16―3）7 住友化学 菊本

反	得	S	（大崎）	（住友）	S	得	反
4	2	3	高橋	中村	1	0	0
7	3	4	田口	上田	2	1	3
7	7	11	北村	村田	0	0	1
6	2	2	金田	松井	4	0	4
3	3	3	宮原藤	長嶺	0	0	4
12	4	7	竹野	加藤	17	6	3
4	1	2	村上	北山	8	0	3
2	2	4	井上	伊藤	1	0	4
1	5	7	坂野	中野	3	0	3
0	0	0	福本 GK	GK 宮崎	0	0	1
0	0	0	今野 GK	GK 夏井	0	0	1
46	29	43	7	7mスロー	36	7	27

大洋は2連勝 一般女子

▽1回戦

レナウン工業大阪（大阪）8（3―2、5―4）6 岡山ク（岡山）

徳山ク（山口）15（8―3、7―3）6 涌谷高OG（宮城）

富山女高OG（富山）18（11―1、7―1）2 函館ク（北海道）

田村紡（三重）26（12―2、14―2）4 高知ク（高知）

▽準々決勝

愛知紡（愛知）12（8―3、4―3）6 レナウン工業大阪

レナウン工業東京（東京）18（8―0、10―7）7 徳山ク

大崎電気（埼玉）25（13―0、12―1）1 富山女高OG

大洋デパート（熊本）10（7―0、3―4）4 田村紡

レナウン工業東京 13（6―3、7―3）6 愛知紡

反	得	S	（愛知）	（レナウン）	S	得	反
0	0	0	山崎	渡辺	7	6	6
0	0	0	宮本	太田	1	0	5
2	0	3	塚原	風岡	14	5	3
7	1	6	古谷	竹本	4	0	11
5	0	2	青木	林（悠）	2	2	6
6	0	1	沢田	斉藤	0	0	0
6	5	14	小林	川上	0	0	3
7	0	3	木村	林（雄）	1	0	0
7	0	0	横倉				
0	0	0	篠崎 GK	GK 山田	0	0	0
				GK 柿沼	0	0	0
40	6	29	1	7mスロー	3		29 13 34

〔評〕レナウンは夏の全日本総合に次いで二度も愛知紡を破った。太田、竹本の不振を風岡、渡辺が完全にカバーし、この二人で11点をあげた。愛知紡はせっかく沢田が中央を割ってチャンスをつくるが、フォローがないうえに小林の動きが全く悪かった。速攻がなく、それにベテラン沢田、青木、山崎、塚原にいつまでもたよっていては気の毒だ。小林、木村が早く一人前にならないとだめ。

天皇杯得点

順位	県	得点	競技得点
1.	山口	10点	(31)
2.	大阪	7	(26)
3.	愛知	6	(23)
4.	熊本	5	(19.5)
5.	埼玉	4	(16)
6.	東京	3	(12)
7.	広島	2	(11)
8.	富山	1	(10)

皇后杯得点

順位	県	得点	競技得点
1.	山口	10点	(12)
2.	熊本	7	(10)
3.	大阪	6	(7.5)
4.	東京	4.5	(7)
4.	静岡	4.5	(7)
6.	埼玉	2.5	(6)
6.	広島	2.5	(6)
8.	愛知	0.5	(5)
8.	富山	0.5	(5)

（カッコ内は競技得点です）

▽準決勝

大洋デパート 10（6―3、4―3）6 大崎電気

反	得	S	（大崎）	（大洋）	S	得	反
4	0	5	田村	立山	0	0	0
5	1	1	笠原	徳永	5	1	3
4	0	1	早乙女	桜木	2	0	4
4	0	0	黒川	千原	1	1	9
3	0	1	宇井	西村	6	3	7
5	2	7	早川	久連松	4	4	3
6	0	1	鈴木	中村	3	1	7
0	0	0	斉藤	中尾	0	0	0
0	3	3	永井	高山	0	0	0
0	0	0	古谷 GK	GK 山口	0	0	0
0	0	0	西 GK	GK 木原	0	0	0
31	6	19	3	7mスロー	2		22 10 33

〔評〕大崎は日ごろの力を半分も出せなかった。ゴール前のパスワークだけでは得点にならない。積極的に攻め、中央に突っ込んでシュートしないかぎり、いくらパスワークがうまくてもだめである。大崎前半の3点のうち2点は7メートルスロールによるもの。大洋は大崎の手の中を知っているから、大崎のパスワークを見ているだけ。そして大崎のミスをさそってフリースロー、徳永―久連松のコンビはいい。久連松の目がいいのにはおどろいた。前半15分すぎからエース西村が得意の突進で2点をあげたのはさすが。後半大崎は必死に反撃したが、前半の失点が最後まで響いた。

▽3位決定戦

大崎電気 15（7―3、8―5）8 愛知紡

大崎は前日とは打って変わるほどうまいプレーをした。これがどうして対大洋戦に出なかったのか。やればできるものを…。愛知紡はやはり小林にたよりすぎた。

▽決勝

大洋デパート 12（4―2、8―4）6 レナウン工業東京

反	得	S	（レナウン）	（大洋）	S	得	反
13	1	7	渡辺	立山	0	0	0
6	2	3	太田	徳永	6	1	3
3	2	7	風岡	桜木	2	0	1
7	0	3	竹本	千原	1	1	7
5	0	0	林（悠）	西村	8	6	9
0	0	0	斉藤	久連松	6	3	2
0	0	0	川上	中村	6	1	8
5	1	1	林（雄）	中尾	0	0	0
				高山	0	0	0
0	0	0	山田 GK	GK 山口	0	0	0
0	0	0	柿沼 GK	GK 木原	0	0	0
39	6	21	0	7mスロー	3		29 12 30

〔評〕シュート力の差で勝負がついた。大洋は西村のリードがあってすばらしい速攻を見せた。数少ないチャンスを正確なシュートで決め、後半西村がロング、フリースロー、ジャンプシュートなどで一人で6点をあげた。西村の活躍があると実に活気がある。それに久連松の存在も見のがせない。7mスローを確実にものにするのは大きなプラス。レナウンはすっかり西村にかき回された形。久連松、徳永をマークしたのはよかったが、西村をつぶすひまがなかった。しかしよくやった。風岡が技術的に進歩したのは大きな収穫である。

大阪が初優勝 男子教員

▽1回戦

福島教員ク（福島）17（13―3、4―12）15 北海道教員団（北海道）

山口教員団（山口）20（9―7、11―11）18 香川教員チーム（香川）

▽準々決勝

大阪教員団（大阪）42（24―6、18―5）11 福島教員ク

新潟県教員チーム（新潟）16（9―5、7―7）12 岡山教員（岡山）

全愛知教員ク（愛知）19（10―7、9―9）16 若球会（東京）

熊本教員ク（熊本）15（8―6、7―8）14 山口教員団

▽準決勝

大阪教員団 27（14―8、13―9）16 新潟県教員チーム

反	得	S	（大阪）	（新潟）	S	得	反
2	2	6	加藤	大脇	9	5	6
3	0	0	山本	大矢	1	0	5
0	2	4	東	宮田	2	0	12
5	8	20	青木	金山	13	8	10
3	6	10	丸岡	村山	2	0	6
4	8	13	井上	機木	9	4	2
0	0	0	藤井	加賀谷	0	0	0
1	1	1	北岡	小竹	0	0	0
0	0	0	森川	米津	0	0	0
				GK 竹田	0	0	0
0	0	0	児島 GK	GK 駒野	0	0	0
18	27	54	8	7mスロー	5		36 17 41

〔評〕大阪は東、井上、丸岡、青木ベテランぞろい。新潟は金山芝浦工大出のワンマンチーム。大阪の速攻はすばらしかった。新潟は金山にたよりすぎた感ががあるが、大阪が相手では善戦したといっていい。

熊本教員ク 25（12―7、13―8）15 全愛知教員

反	得	S	（愛知）	（熊本）	S	得	反
0	0	0	赤松	荒木	2	2	2
5	0	1	野村	元田	22	11	5
5	1	4	奥村	津田	7	5	0
3	1	3	斉藤	森	1	1	9
8	7	12	小鳥居	谷脇	1	1	1
1	0	1	小林	緒方	8	4	4
7	1	4	堀	板橋	0	0	0
2	5	21	浅野	簗田	0	0	1
0	0	0	時田	米石	2	1	8
0	0	0	鈴木 GK	GK 島田	0	0	0
0	0	0	泥田 GK	GK 渡	0	0	0
31	15	46	4	7mスロー	3		43 25 30

〔評〕熊本はポストプレーで愛知のディフェンスをゆさぶった。これが成功し、さらにカットしてからの逆襲も早かった。愛知は浅野の早い動き、パスワークのあとのフォローがなくチャンスをつぶしていた。

▽3位決定戦

全愛知教員ク 19（9―6、10―11）17 新潟県教員チーム

▽決勝戦

大阪教員団 15（8―7、7―4）11 熊本教員ク

(熊本)	S	得	反
荒木	0	0	0
元田	19	7	1
津田	3	1	1
森	1	0	0
谷脇	0	0	1
緒方	8	2	2
板橋	0	0	0
築田	0	0	0
米石田	2	1	2
GK 島田	0	0	0
GK 渡	4	0	0
計	33	11	7

反	得	S	(大阪)
0	0	0	加藤
6	0	0	山本
1	2	4	東
7	5	12	青木
6	3	6	丸岡
7	5	12	井上
1	0	0	藤井
4	0	0	北岡
0	0	0	森川
0	0	0	GK 光島
32	15	34	計

7mスロー 大阪 2 熊本 2

〔評〕38年夏の全日本教職員選手権決勝に次いで二度目の対戦。大阪は前半熊本元田のポストプレーに手を焼き、2―4ディフェンスもくずれて10分まで5―2と熊本リード。24分から丸岡、青木、井上が連続ゲットして7―6と逆転した。熊本は26分元田がシュートンして同点としたが、大阪は27分青木が決めて前半8―7とリードした。後半熊本はポストプレーを続けたが、大阪ディフェンスはこのポストプレーを完全にマークしてしまった。そして井上、東の好打で熊本を押えて初優勝した。熊本は夏の教職員大会よりはるかにまとまりをみせ、これからが大いにたのしみ。

徳山、中京商を破る

高校男子

▽1回戦

明星（東京）15（6―4、9―6）10 新居浜工（愛媛）

熊本市商（熊本）20（10―7、10―4）11 函館東（北海道）

▽準々決勝

中京商（愛知）27（13―1、14―5）6 明星

修道（広島）20（9―9、11―8）17 氷見（富山）

寝屋川（大阪）19（12―7、7―6）13 盛岡一（岩手）

徳山（山口）28（13―5、15―5）10 熊本市商

▽準決勝

中京商 23（14―5、9―5）10 修道

(修道)	S	得	反
坂下	1	0	3
岩西	5	2	5
山本	0	0	0
西元	0	0	0
黄田	0	0	1
大島	16	8	2
小畑雅	0	0	0
小畑那	7	0	0
財満	1	0	8
GK 田中	0	0	0
GK 木下	0	0	0
計	30	10	19

反	得	S	(中京)
3	3	5	黒川
12	3	4	片山
6	4	7	安藤
3	1	3	小島
1	4	4	西尾
6	7	12	大下
0	0	0	蟹江
0	1	1	花井
0	0	1	森田
0	0	0	GK 平松
0	0	0	GK 柳沢
31	23	37	計

7mスロー 中京 3 修道 6

〔評〕中京は前半10分までに大下が4点、西尾、安藤がゲットして6―2とリードした。修道もよく反撃したが、中京のスピードに押されてしまった。後半中京はダイナミックな攻撃を展開して勝ったが、修道は大島に打たせる以外に手がなかった。

徳山 21（12―5、9―12）17 寝屋川

(徳山)	S	得	反
明石	3	3	6
福田	0	0	3
山田	6	5	10
宮崎	4	3	5
藤井	5	3	3
近森	14	7	7
GK 竹下	0	0	0
計	32	21	34

反	得	S	(寝屋川)
5	0	1	多賀屋
2	1	1	柴田
4	2	6	北村
6	5	18	大西
12	8	20	木野
6	0	4	新堂
0	0	0	GK 川口
35	16	50	計

7mスロー 寝屋川 3 徳山 2

〔評〕徳山は前半1分明石の先取得点から調子のよい滑りだしをみせた。ポイントゲッター近森を中心に明石、宮崎がよく走り回って着々と加点した。後半寝屋川は徳山のゆるみをのがさず、早い攻撃ペースに巻き込んで大西、木野がシュートをよく決めて18分18―16の2点差に迫った。しかしその後ノーマークシュートを好捕した徳山GK竹下のファインプレーから徳山がペースを取り戻し、3点を加えて寝屋川の反撃を封じた。徳山は終始充実した気力をみなぎらせ、全般に押しぎみの試合を進めたが、両チームとも最後までの敢闘はりっぱだった。

▽3位決定戦

寝屋川 22（12―7、10―7）14 修道

▽決勝戦

徳山 17（8―4、5―9：2―0、2―3）16 中京商

(徳山)	(中京商)
明石	黒川
福田	中山
山田	安藤
宮崎	小島
藤井	西尾
近藤	大下
GK 竹下	GK 平松

徳山		中京商
48	シュート	36
44	反則	26
3	7MT	9

〔評〕平均身長で8センチも大きい徳山は、グラウンドを取り巻いた応援にこたえて好調なスタートを切った。前半速攻とポイントゲッター近森にボールを集め、中京の低い防御の上から強引にシュートを決めて4点をリードした。後半中京商は縦の変化をたくみに使い、倒れ込みシュートで大量点を一気にたたきこんで延長に持ち込んだ。とくにタイムタイムアップ寸前の中京商の加点は劇的なもので、観衆にハンドボールの魅力を感じさせた。

堀本の好守光る（徳山）

高校女子

▽1回戦

新居浜東（愛媛）15（6―5、9―2）7 涌谷（宮城）

明善（福岡）23（14―3、9―1）4 函館中部（北海道）

▽準々決勝

静岡城北（静岡）25（14―3、11―2）5 新居浜東

山陽女（広島）7（3―2、4―3）5 富山女（富山）

豊中（大阪）11（7―4、4―3）7 水海道二（茨城）

徳山（山口）12（5―5、7―6）11 明善

▽準決勝

徳山 13（4―2、9―2）4 豊中

(豊中)	S	得	反
小谷	1	1	1
五十川	6	1	6
小山	6	0	6
岡元	7	2	1
住吉	1	0	5
飯田	3	0	2
北村	0	0	0
山田	0	0	0
高橋節	0	0	0
GK 関富	0	0	0
GK 高橋和	0	0	0
計	24	4	41

反	得	S	(徳山)
9	2	3	沼田
0	0	0	原田(ス)
9	4	4	河窪
4	1	5	世良
5	4	5	重岡
7	2	6	砂岡
0	0	0	宇田
0	0	0	清水
1	0	0	原田(マ)
0	0	0	GK 堀本
0	0	0	GK 藤井
35	13	23	計

7mスロー 徳山 1 豊中 3

〔評〕徳山の慎重なローリングからサウスポー河窪のシュートが決まった。前半は豊中が岡元にボールを集めすぎるのが目立ったほか、両チームともローリングが多く激しい動きのないまま終わった。後半にはいって徳山は豊中のミスから着々加点、とくに河窪、砂岡の右から流れるサウスポーの的確なシュートが印象的だった。一方豊中はシュートのチャンスをしばしばのがしたほか、大半をローリング、リターンパスに終始し、せっかくのアタックも徳山GK堀本にはばまれて得点につながらなかった。徳山の確実なシュート力にやや分があったのと、慎重になりすぎた豊中のゲーム運びが勝負を決めた一戦だった。

静岡城北 10（2―5、8―3）8 山陽女

反	得	S	（静岡）		（山陽）	S	得	反
6	1	1	亀山		長原	0	0	6
5	1	3	山本		工藤	0	0	7
7	0	1	横山		木村	0	0	1
2	6	9	山口		浅井	0	0	0
0	1	3	松田		小原	5	3	5
1	1	2	落合		高橋	8	4	7
0	0	0	早川		三浦	0	0	0
0	0	0	杉山		古田	2	1	1
0	0	0	石垣		今岡	1	0	5
0	0	0	奥山	GK	山村	0	0	0
0	0	0	山田	GK	古川	0	0	0
21	10	20	3	7mスロー	1	16	8	32

〔評〕 山陽は落ち着いてボールを回しながら、深く横にひろがった静岡のディフェンスを一方的な切り込みや、リターンパスからのロングシュートで破り前半をリードした。静岡は日ごろの調子が出なかった。強引なセットプレーや速攻の失敗がたたってちぐはぐな攻防に終わった。静岡は後半やっと調子を取り戻しディフェンスにも積極さが出てきた。また速攻、サイドをつくセットプレーなどにもさえが出てきた。山陽は静岡の立ち直りを必死に封じようとしたが、速攻もなく静岡の得点を許した。両チームともチームワークに見るべきものはなく、ゲーム運びにものたりなさを感じさせた。

▽3位決定戦

山陽 8（2―3、6―0）3 豊中

▽決勝戦

徳山 6（3―3、3―2）5 静岡城北

反	得	S	（静岡）		（徳山）	S	得	反
9	0	3	亀山		沼田	2	1	6
7	1	5	山本		原田（ス）	3	2	0
2	0	1	横山		河窪	1	1	2
7	3	9	山口		世良	8	0	2
2	0	1	松田		重岡	2	1	4
3	1	2	落合		砂岡	8	1	2
0	0	0	早川		宇田	0	0	0
0	0	0	杉山		清水	0	0	0
0	0	0	石垣		原田（マ）	0	0	1
0	0	0	奥山	GK	堀本	0	0	0
0	0	0	山田	GK	藤井	0	0	0
30	5	21	6	7mスロー	2	24	6	17

〔評〕 両チームともよく動いて活気のある攻防戦を展開したが、前半は実力伯仲で3―3とタイスコア。後半もシーソーゲームを展開したが、徳山はタイムアップ寸前砂岡の殊勲のショートが決まり、見事初優勝した。徳山はGK堀本の好守が光り、3本の7メートルスローを止めた。静岡はこれに反してスローが雑で精彩がなかった。とくに前半に重なったラインクロスの不運はゲームアップまで響いた。それに疲労からくる消極戦法に、あせりと慎重さがからんで動きのわりには得点がなかった。

39年度の日程

▽第19回国体（6月6日〜11日・新潟県柏崎市）

▽第7回全日本学生選手権大会（7月23日〜26日・広島市）

▽第15回全国高校選手権大会（8月2日〜7日・長野県上田市）

▽第7回全国教職員選手権大会（8月12日〜14日・京都市）

▽第14回全日本総合選手権大会（8月23日〜27日・岐阜県高山市）

▽第14回全日本学生東西対抗（9月13日・名古屋市）

▽第17回全日本学生王座決定戦（11月29日か12月6日・大阪市）

▽第11回全日本総合室内選手権大会（12月16日〜20日・東京都）

▽第5回全日本実業団選手権大会（40年2月6日〜8日・大阪市）

このほか国際交流試合として6月17日から7月17日までフランスのステラー・チーム（男女とも）が来日する。また8月17日から28日まで日本の高校男女チームが韓国に遠征する。

× × × ×

◎東京都協会だより

「39年度スケジュール」

▽国体都予選（4月18・19日）

▽全日本総合都予選（6月13・14日）

▽東京都選手権（11月21・22・23日）

▽全日本総合室内選手権都予選（11月28・29日）

× × × ×

◎指導書でき上がる

日本協会技術部は「ハンドボール指導の手引き（練習編）」を発行した。一部二百円。希望者は技術部松本重雄まで申し込んでください。

◎関東学連新役員

▽理事長　吉田正次郎（明大OB）▽審判長　安藤純光（法大OB）▽副審判長　佐野和夫（教大OB）藤本強（東大OB）▽委員長　世利孝敏（中大）▽副委員長　山本敏幸（日体大）和田ちとせ（東女体大）

総評

レベルの上った一般女子

一般女子

近年男子が一般、実業団あるいは学生など海外遠征や国際試合の交流が多くなったが、女子チームも昨年初の海外遠征が行なわれた。この影響は女子実業団には大きな刺激だった。それは女子実業団チーム加盟が増したこと、そしてその力もまた急上昇をたどっていることがわかる。特に国体にははっきりと表われていた。ブロック予選を通過した代表チームを見ても、12チーム中6チームが実業団であり、またその力も近年にない充実さを示している。従来の一般女子との格差は相当の開きがあったようだ。その一例をあげれば徳山クラブ、富山女高OGなどは従来の一般女子チームに比してその力は充実していたと思う。従って対大洋デパート、大崎電気との試合は、あるいはと期待していたのだったが、ついに及ばなかった。徳山クラブの速攻、セットオフェンスは見るべきものがあったが、実業団の力はそれを上回っていた。それは練習量に比例できる脚力とスタミナの差にあった。おそらく第19回国体では一般女子の内容は、第18回国体にくらべて体力、技術ともに充実していることだろう。ちなみにレナウン東京、田村紡の両チームはともに準決勝で敗れたとはいえ、大いに期待できるスピーディーなチームだったとの印象が深い。（入江暢一）

* *

教員男子

夏の全日本教職員選手権大会にくらべ、体力、技術の向上がはっきりとわかった。それに高度なプレーが多く見られたのはよかった。

決勝は大阪―熊本となったが、プレーの若い熊本がベテランの多い大阪を苦しめたのはほめていい。それにしても大阪の速攻はすばらしかった。全試合を通じて改めたいのは、ディフェンスが荒すぎることだ。これは退場者が多いことでもわかる。（岡村昭二）

高校男子

出場10チームは8月のインターハイに出場し、ブロック予選に勝ち進んできた。大会前の予想はインターハイ決勝で桜台に惜敗したが、県予戦で雪辱をとげた中京商業。昨年から強化合宿遠征試合の豊富さと自校グラウンドの徳山。インターハイ3位の寝屋川の3校が優勝候補であった。結果は徳山―中京商の決戦となり、延長のすえ徳山が優勝した。

インターハイに比べ、ファイト、スタミナ、テクニック、コンディション、タクティクスなどすべての点で充実していた。またコートマナーも非常にりっぱであった。特に印象に残ったゲームは、2回戦の中京商―明星の前半である。中京の完ぺきな防御（明星7メートルスロー1点のみ）、準決勝徳山―寝屋川の速攻の応酬、決勝戦に見せた徳山の気力とスピード、中京商が見事なパスワークで2度も同点に追いついた粘りである。（村田　弘）

第10回全日本総合室内選手権

大崎電気(女子)が初優勝

第10回全日本総合室内選手権大会は昨年12月19日から22日まで東京の台東体育館，新宿体育館で開かれた。男子は立大（学連推薦）対全日体大（協会推薦）の決勝となり，1点を争う接戦のすえ全日体大が2連勝，通算4度目の優勝をとげた。女子は大崎電気（協会推薦）対大洋デパート（協会推薦）の間で優勝が争われたが，大崎電気は西村を欠く大洋デパートを破り初めて全日本のタイトルを握った。

男子は全日体大が2連勝

男子

立大1点差に泣く

▽一回戦

京都ク(近畿) 24（11―10, 13―5）15 東北学院大(宮城)
慶大(学連) 29（1―0, 3―1 ⋮ 10―14, 15―11）26 日本鋼管ク(協会)
明大(学連) 31（15―14, 16―8）22 山口教員団(中国)
足利球友会(関東) 不戦勝 同志社大(学連)
教大(学連) 27（18―6, 9―6）12 新潟教員(北陸)
芝浦ク(東京) 19（9―9, 10―7）16 防衛大(学連)
清商ク(東海) 23（14―6, 9―9）15 東大(学連)

▽二回戦

立大(学連) 21（9―9, 12―4）13 京都ク
滴水会(東京) 28（13―14, 15―4）18 慶大
明大 28（17―9, 11―8）17 福岡教員(九州)
芝浦工大(学連) 38（19―7, 19―4）11 足利球友会
大崎電気(協会) 30（15―9, 15―10）19 教大
芝浦ク 23（13―11, 10―9）20 早大(協会)
法大(学連) 36（22―4, 14―3）7 TG会(東北)
全日体大(協会) 24（12―6, 12―9）15 清商ク

▽準々決勝

立大 25（18―5, 7―9）14 滴水会
芝浦工大 37（23―4, 14―8）12 明大
大崎電気 21（10―5, 11―4）9 芝浦ク
全日体大 33（21―8, 12―10）18 法大

▽準決勝

立大 18（3―0, 0―1 ⋮ 11―8, 4―7）16 芝浦工大

反	得	S	(立大)		(芝浦)	S	得	反
6	3	15	安達		川島	4	2	7
7	8	23	江名		新	6	2	7
6	3	8	中根		福島	13	4	3
0	1	1	田村		住広	12	4	9
6	1	2	斎藤		池田	3	2	9
5	2	2	松本		青木孝	9	2	5
0	0	0	高久保		山田	0	0	0
0	0	0	西村		森田	1	0	0
0	0	0	奄原		近藤	1	0	0
0	0	0	尾形	GK	青木実	0	0	0
0	0	0	大久保	GK	出野	0	0	0
30	18	51	2	7mスロー	3	49	16	40

〔評〕立大―芝浦工大の顔合わせはこれで四度目。立大は関東学生春のリーグ、全日本学生準決勝で勝ち、芝浦工大は秋のリーグ戦で勝っている。学生の最高峰を行く両チームは、互いにフォーメーション、長所、欠点をよく知っている。立大は前半セットプレーに専念し、芝浦工大の堅いディフェンスに押れていた。芝浦工大は秋のリーグで成功した住友のロングシュートに期待したが、立大の好守に得点に結びつけなかった。後半になると立大は動きが早くなり、安達、中根の好リードで江名を生かして反撃した。タイムアップ10秒前に芝浦が立大ゴール前でストーリングにはいろうとした瞬間、立大は見事カットに成功して延長戦となった。芝浦にとっては〝魔の10秒〟であった。延長前半1分に芝浦は福島がカットインに成功してリードしたが、立大は自己のペースで試合を進め、少しもあわてなかった。後半カットから速攻を展開、3分松本、3分30秒安達、4分50秒斎藤が連続ゲットして芝浦を振り切った。

全日体大 18（11―7, 7―6）13 大崎電気

反	得	S	(大崎)		(全日体)	S	得	反
1	0	0	高橋		小林	10	4	7
3	1	4	田口		三友	2	0	2
2	1	9	北村		北山	4	2	3
3	1	2	金田		青木	10	5	6
5	0	5	宮原藤		東	2	0	3
9	7	21	竹野		井上	15	5	0
0	0	0	宮原宏		藤原	3	2	1
10	3	11	井上		沢田	0	0	0
0	0	0	杉山		石原	0	0	0
0	0	0	福本	GK	島崎	0	0	0
0	0	0	今野	GK	高橋	0	0	0
33	13	52	4	7mスロー	4	46	18	22

〔評〕前半は追いつ追われるの接戦となり、全日体大が7―6とリードした。しかし最高の技術を見せてくれると思っていたが、案に相違して荒っぽい試合となった。全日体大の青木は右マブタを切って退場、大崎の竹野は味方のGK福本と衝突して頭を打ち、金田はメガネを割って試合はいちじ中断するという騒ぎ。これがハンドボールかと疑いたくなるほど荒れていた。ハンドボールはもっとスマートであってほしい。アメリカンフットボールを見ているようだった。したがって技術的に取り上げるものがなかった。見ている方の感じとしてはレフェリーが遠慮しないでびしびし7メートルスローを取ってほしかった。そうすれば徐々に荒いプレーがなくなったと思う。レフェリーの主観といえばそれまでだが…。後半は激しい打ち合いを展開、17分には大崎

優勝チーム

回	(男)	(女)
第1回(大阪)	日体大	春日丘クラブ
第2回(平塚)	日体大	日体大
第3回(大阪)	全芝浦工大	日体大
第4回(名古屋)	日体大	半田高
第5回(大阪)	全日体大	寝屋川クラブ
第6回(東京)	全芝浦工大	熊本クラブ
第7回(東京)	全日体大	熊本商大クラブ
第8回(東京)	大崎電気	愛知紡績
第9回(東京)	全日体大	愛知紡績
第10回(東京)	全日体大	大崎電気

竹野がゲットして12－12と追い上げた。全日体大は攻撃の手をゆるめず、22分、24分に藤原がシュートして14－12と大崎を引き離し、15－12、16－12と安全圏に逃げ込んだ。

▽3位決定戦

大崎電気 20（14－8、6－11）19 芝浦工大

▽決　勝

全日体大 18（9－11、9－6）17 立　大

反	得	S	(全日体)		(立大)	S	得	反
10	5	12	小　林		安　達	19	5	9
0	0	2	三　友		江　名	20	5	9
5	1	6	北　山		中　根	7	0	4
8	5	8	青　木		田　村	8	2	2
5	0	3	東		斎　藤	5	4	5
2	4	13	井　上		松　本	3	1	4
2	3	4	藤　原		高久保	0	0	0
0	0	0	沢　田		西　村	0	0	0
0	0	0	石　原		庵　原	0	0	0
0	0	0	島　崎	GK	尾　形	0	0	0
0	0	0	高　橋	GK	大久保	0	0	0
321448				7mスロー		621733		

〔評〕 日体大の出足はよく、前半1分青木のシュートで先取点をあげた。立大も2分に田村が決めて1－1。5分に日体大の井上が7メールスロー、立大も田村が再びゲットして。このころから立大の連攻が出て12分までにと日体大を引き離した。立大は細かい動き、パスを使かって日体大のディフェンスをゆさぶったのはすばらしかった。そして江名、安達のミドルシュート、斉藤のサイド攻撃などが決まったものである。日体大はディフェンスの詰めの悪さと、中央への集中攻撃を繰り返して立大にリード許してしまった。日体大としてはこの4点差はちょっと苦しかった。しかし20分をすぎてから小林のポスト、ジャンプが決まって前半はなんとか2点差で終わった。後半になると立大は前半と同じペースで動いた。これは日体大の思うつぼ。日体大はローリング戦法に出て立大ディフェンスをかき回した。それにGK島崎のファイン・プレーがあって10分には藤原のゲットで12－12のタイスコアとしてしまった。こうなると東、井上、小林のOBを持つ日体大のペース、速攻、オープン攻撃、鋭い突っ込みで得点して26分には16－13と逆にリードした。立大も必死に追いかけ、江名、安達の好打で18－17と1点差にしたが、つい挽回にできなかった。

優 秀 選 手 を 表 彰

日本協会は38年度の優秀チーム，優秀選手を選考，近く表彰する。

▼ 昭和38年度優秀チーム

（男子）

立教大
全日体大
大崎電気
芝浦工大

（女子）

大洋デパート
大崎電気
レナウン工業東京
愛知紡績

▼ 昭和38年度優秀選手

（一般男子の部）

位置	氏名	年令	学校名
GK	福本　弘	24	大崎電気
〃	尾形　譲	19	立教大学
〃	青木　実	21	芝浦工大
FP	東　嘉伸	27	全日体大
〃	青木義男	23	〃
〃	藤原　侑	22	〃
〃	安達精太	22	立教大
〃	江名英彦	21	〃
〃	竹野奉昭	27	大崎電気
〃	北村尚英	23	〃
〃	田口侑義	24	〃
〃	住広尚三	21	芝浦工大
〃	新　繁樹	24	〃
〃	川島紘八郎	21	〃
〃	北井晴次	20	教大

（一般女子の部）

位置	氏名	年令	学校名
GK	古谷芳枝	20	大崎電気
〃	篠崎益野	20	愛知紡績
〃	柿沼夫美	19	レナウン工業（東京）
FP	西村八千代	20	大洋デパート
〃	久連松美知子	20	〃
〃	徳永智子	19	〃
〃	鈴木功子	19	大崎電気
〃	宇井敬子	20	〃
〃	早川清美	19	〃
〃	田村うた子	20	〃
〃	太田美紀子	19	レナウン工業（東京）
〃	風岡亮子	19	〃
〃	竹本千恵子	20	〃
〃	塚原米子	21	愛知紡績
〃	古谷うめ子	20	〃

（ジュニア男子の部）

位置	氏名	学校名	学年	年齢
GK	竹下洋一	徳山高	3	18
〃	平松貞己	中京商	3	18
〃	山村三男	桜台高	3	18
FP	近森克彦	徳山高	3	18
〃	山田和之	〃	3	18
〃	宮崎和彦	〃	3	18
〃	明石英利	〃	2	16
〃	安藤　勘	中京商	3	18
〃	小島英男	〃	3	18
〃	西尾寿一	〃	3	18
〃	大下幸男	〃	3	18
〃	木野　実	寝屋川	3	18
〃	大西武三	〃	3	18
〃	大島壮夫	修道高	3	18
〃	山田　透	桜台高	3	18
〃	竹内　裕	〃	3	18
〃	神谷葭孝	〃	3	18
〃	小林克人	〃	3	18
〃	中西　博	伏見高	3	18
〃	旗野俊彦	明星高	3	18
〃	杉田盛彦	盛岡一高	3	18

（ジュニア女子の部）

位置	氏名	学校名	学年	年齢
GK	堀本早苗	徳山高	3	18
〃	奥山淑子	城北高	2	17
〃	板倉正子	栃木女高	3	18
FP	砂岡徳子	徳山高	3	18
〃	河窪吉江	〃	3	18
〃	重岡厳子	〃	3	17
〃	世良万佐江	〃	3	17
〃	亀山純子	城北高	3	18
〃	山口千恵子	〃	3	18
〃	松田房枝	〃	2	17
〃	落合トシ子	〃	2	17
〃	小原一恵	山陽女高	3	18
〃	高橋清子	〃	2	17
〃	岡元　葵	豊中高	3	18
〃	今村マスヱ	明善高	3	18
〃	大堀幸子	水海道第二	3	17
〃	関口昌子	栃木女高	3	18
〃	角田幸江	〃	3	18
〃	森之内笑子	半田高	2	16
〃	岡本鈴子	井原高	3	18
〃	門間栄子	涌谷高	3	18

鈴木、優勝へ13点

女子

▽1回戦

秋田和洋女高（東北） 11（7－6、4－4）10 日女体短大（協会）

田村紡（東海） 15（7－6、8－2）8 日体大（学連）

レナウン工業東京（東京） 12（7－8、5－3）11 栃木女高（関東）

静岡城北高（協会） 11（8－2、3－1）3 東京重機（協会）

レナウン大阪（近畿） 10（6－3、4－2）5 菊池農蚕高（九州）

大崎電気（協会） 18（6－3、12－4）7 水海道二高（茨城）

愛知紡（協会） 16（10－2、6－4）6 桜水商高（東京）

▽準々決勝

大洋デパート（協会） 22（11－1、11－4）5 秋田和洋女高

レナウン工業東京 10（4－6、6－3）9 田村紡

静岡城北高 11（7－5、4－2）7 レナウン工業大阪

大崎電気 8（3－4、5－2）6 愛知紡

愛知紡は夏の全日本総合準決勝、秋の山口国体準決勝でともにレナウン工業東京に敗れた。このためチーム再編成にのり出し、沢田、青木、山崎の世界選手権組が退部した。しかし新メンバーでのぞんだものの、大崎電気の速攻、ゴール前の激しいゆさぶりにまたも敗れ去った。大崎電気は国体の3位決定戦で、愛知紡を15－8で破っているので自信を持っていた。鈴木（静岡城北高出）のプレーはすばらしかった。愛知紡は小林の育成がカギとなろう。

▽準決勝

反	得	S	（愛知）	（大崎）	S	得	反
3	1	8	木村	笠原	2	0	4
8	0	4	宮本	黒川	7	1	9
3	1	5	塚原	宇井	4	1	4
8	1	6	古谷	早川	7	0	4
0	0	0	横倉	鈴木	12	5	7
2	3	18	小林	永井	3	1	1
6	0	3	竹市	早乙女	0	0	0
0	0	0	石川	田村	4	0	8
0	0	0	柴田	白石	0	0	2
0	0	0	篠崎 GK	GK 古谷	0	0	0
				西	0	0	0
30	6	44	3 7mスロー 1		39	8	39

大洋デパート 10（7－3、3－4）7 レナウン工業東京

反	得	S	（レナウン）	（大洋）	S	得	反
10	0	2	渡辺	立山	0	0	0
1	2	9	太田	徳永	7	2	4
1	3	11	風岡	桜木	1	0	2
10	1	4	竹本	千原	0	0	5
9	1	2	林	新保	0	0	0
0	0	0	斉藤	久連松	9	5	3
2	0	3	川上	中村	4	1	3
				中尾	2	2	0
				高山	3	0	2
0	0	0	山田 GK	GK 山口	0	0	0
0	0	0	柿沼 GK	GK 木原	0	0	0
33	7	31	1 7mスロー 2		26	10	19

〔評〕大洋はエース西村が腰を痛めてベンチ入り。レナウンも竹本の故障で思うように動けなかった。大洋の久連松、徳永対レナウンの太田、風岡の打ち合いとなった。大洋は西村が欠けたため速攻が出ず、フリースローによる得点にすべてをかけ、レナウンは風岡のサイド攻撃に期待をかけた。大洋は前半久連松が2点、徳永が1点、レナウンは風岡2点、林、太田が1点をあげた。レナウンが前半リードした4点目は風岡のフリースローが決まったもの。大洋は後半久連松にボールを集めた。久連松は7メートル・スロー2本、フリースロー2本を決める大活躍でレナウンを押えた。また長身の中尾のジャンプショットはすばらしかった。だが大洋がフリースローだけにたよっていたのは寂しい。レナウンはたった9人の選手では交代ができず、これが敗因につながった。そのなかで風岡のプレーはひときわ光っていた。

大崎電気 6（2－4、4－0）4 静岡城北高

反	得	S	（大崎）	（静岡）	S	得	反
3	1	2	笠原	亀山	3	1	2
4	1	1	黒川	山本	5	1	2
6	0	1	宇井	横山	1	0	2
4	2	6	早川	山口	5	1	0
6	2	3	鈴木	松田	1	1	1
0	0	0	永井	落合	6	0	1
0	0	0	早乙女	草川	1	0	0
3	0	3	田村	杉山	0	0	0
0	0	0	白石	小林	0	0	0
0	0	0	古谷 GK	GK 奥山	0	0	0
0	0	0	西 GK	GK 山田	0	0	0
26	6	16	0 7mスロー 0		22	4	8

やっと優勝を

大崎電気　宇井敬子

やっと優勝した。第10回全日本総合室内選手権に創立三年目の終わりである。長い間の苦労にやっと光が射し、宿願が達成されたあの瞬間は忘れられない。このときまでのきびしく苦しかった長い日々のことも、優勝という結果の表われにおいては楽しい思い出に変わって行った。私達だってやればできるのだ。あのときの気持ちをいつまでも忘れず、今年の全日本、国体のタイトルを獲得したい。

〔評〕高校NO.1の静岡、実業団のトップレベルにある大崎電気の一戦はスピーディーなゲームが予想されたが、これは期待はずれだった。両チームとも堅くなりすぎて動きが鈍く、静岡はボールをキープすること7分間、これでは得点にならず、正面から攻めずサイド攻撃を繰り返していた。このため前半10分まで4－0と大崎がリードしたままで前半を終わった。後半静岡が積極的に攻め、5分から6分30秒までに山本、松田、山口がゲットして5－3と2点につめた。静岡はようやく力を出し試合はおもしろくなった。だが10分大崎の鈴木がグットしてから試合は再び膠着状態となり、11分からタイムアップまで静岡亀山の1点だけ。静岡が前半から攻め込んでいたらよかったと思う。それにしても大崎のディフンスは少し荒かったようだ。

▽3位決定戦

レナウン工業東京 4（1－2、3－2）4 静岡城北高（引き分け、ともに3位）

▽決勝

大崎電気 9（6－3、3－2）5 大洋デパート

反	得	S	（大洋）	（大崎）	S	得	反
0	0	0	立山	笠原	4	0	9
2	0	5	徳永	黒川	2	1	5
0	0	1	桜木	宇井	2	0	3
2	0	0	千原	早川	2	1	1
0	0	0	新保	鈴木	13	6	2
4	4	9	久連松	永井	3	0	1
3	1	3	中村	早乙女	0	0	1
0	0	3	中尾	田村	3	1	4
0	0	7	高山	白石	0	0	1
0	0	0	山口 GK	GK 古谷	0	0	0
0	0	0	木原 GK	GK 西	0	0	0
11	5	28	1 7mスロー 1		29	9	27

〔評〕○…大崎電気は鈴木の活躍で初めて全日本のタイトルを握った。試合はまず前半2分に久連松のフリースローで大洋が1－0とリードした。大崎もすぐ追いかけ、3分に鈴木が右から持ち込んで1－1。大洋は西村の欠場で攻め手がなく、フリースローからの得点をねらうばかり。6分早川がジャンプシュートして大崎2－1とリードした。大洋も7分再び久連松がフリースローで2－2と同点にした。大崎は大洋ゴール前で激しくゆさぶったが、大洋は要所を固めて得点を許さなかった。10分鈴木が大洋のボールをカットし、ノーマークシュートして3－2。大崎は1－5ディフェンスを敷き、鈴木を前面に立たせてカットをねらった。これが成功したわけ。鈴木は足が早く、実に勘がいい。このあとは互いにボールキープで時間をつぶして前半を終わった。

○…後半大崎は30秒、1分に鈴木が連続ゲットして5－2。5点目は鈴木得意のカット、ノーマークによるもの。大洋は13分まで無得点、やっと14分久連松が7メートルスローを決めた。だが大崎鈴木のすばらしい出足に押されてどうしようもなかった。鈴木はひとりで6点をあげて大崎優勝の因をつくった。大洋は前半7分から後半14分まで計27分間得点できなかった。西村がいないとはいえ、これで勝てない。だが久連松は西村の跡を埋め、4点をたたき出したのはほめていい。

くつ下・婦人服地・婦人既製服
セーター・肌着・ランジェリー
世界のモードをつくる
RENOWN
レナウン
レナウン商事株式会社
レナウン工業株式会社

王座6たび芝工大に

・・学生界秋のシーズン総成績・・

第16回全日本学生王座決定戦は昨年11月23日午後6時半から東京新宿体育館で芝浦工大（東日本）対同志社大（西日本）の間で争われた。体力、技術にまさる芝浦工大が予想どおり快勝、3年連続、6度目の王座についた。

芝浦工大 25（14－13 / 11－4）17 同志社大

反	得	S	（芝浦）		（同大）	S	得	反
4	4	8	青木孝		鳥井	17	7	7
14	3	5	川島		石井	8	2	10
7	3	6	新		斉藤	1	0	4
4	8	11	住広		東尾	6	1	6
4	3	7	池田		景山	0	0	4
3	2	5	福島		宮野	10	7	3
2	2	2	森田		西川	0	0	0
2	0	0	近藤		林	0	0	2
1	0	0	山田		川井	0	0	0
0	0	0	渡辺	GK				
1	0	0	青木実	GK	奥本	0	0	0
42	25	44	3	7mスロー	5	42	17	36

○…3年連続同じカード。芝工大は前回のメンバーから川島、福島、住広の三人しか残っていない。

同大は宮野、東尾、GK奥本ら8人が連続出場。同大にとっては初の王座獲得のチャンスだった。しかしその期待は見事にはずれ、試合はスピードにまさる芝浦の一方的なペースで進んだ。

○…同大は38年春に立大を破るほどの実力を持っている。それがほとんどなすすべなく、芝工大の速攻の前に敗れたのはうなずけない。

後半ようやくペースを取り戻して西の王者の面目を見せたものの、前半のまずい攻撃、守備で試合を全くつまらないものにしてしまった。

最近「東西の差」がよくいわれるが、技術差よりも関西勢は総じて気力の点に欠けるものがあるのではなかろうか。

芝浦、東日本で6連勝

昭和38年度優勝大会（第6回）東日本学生優勝大会（王座決定東日本予選）は昨年11月13日、明大八幡山で行なわれ、芝工大（関東）が文句なしの6連勝を飾った。

▽リーグ戦

中京大（東海） 21（8－8 / 13－7）15 東北学院（東北）

芝浦工大（関東） 37（23－4 / 14－1）5 中京大

芝浦工大 32（20－3 / 12－4）7 東北学院大

同大、広商大を制す

昭和38年度（第4回）西日本学生優勝大会（王座西日本予選）は昨年11月17日京大グラウンドで行なわれ、同志社大（関西）が広島商大に勝ち三連した。

同志社大（関西） 30（18－6 / 12－5）11 広島商大（中四国）

立大連勝ならず

昭和38年度関東学生秋季リーグ戦は昨年10月6日開幕。連勝を狙う立大と雪辱を期す芝工大の争いが焦点となったが、芝工大が勝って12回目の優勝を決めた。

▽男子一部

立大 24－18 教大
芝浦工大 30－10 明大
日体大 17－14 中大
早大 21－17 法大
中大 18－13 早大
日体大 21－15 法大
立大 23－14 明大
芝浦工大 26－7 教大
立大 27－7 中大
日体大 25－12 明大
芝浦工大 30－15 法大
教大 26－17 早大
明大 14－13 早大
日体大 25－18 教大
芝浦工大 25－7 中大
立大 22－13 法大
教大 15－11 中大
法大 16－15 明大
芝浦工大 27－12 日体大
立大 16－12 早大
立大 16－5 日体大
芝浦工大 26－13 早大
教大 27－17 法大
明大 20－10 中大
教大 28－18 明大
法大 18－11 中大
早大 11－10 日体大
芝浦工大 18（9－9 / 4－8）12 立大

【一部順位】 ①芝浦工大7戦全勝②立大6勝1敗③日体大、教大4勝3敗⑤法大・早大・明大2勝5敗⑧中大1勝6敗。

【二部順位】 ①慶大4勝1敗②防衛大4勝1敗（1位決定戦慶大16－15防大）③茨大3勝2敗④東大2勝3敗⑤学芸大、順天大1勝4敗。

【三部順位】 ①日大3勝1敗②理大・武蔵工大・千葉工大各1勝2敗。

▽女子（3校2回戦制リーグ）

①日体大 16－5 日女体短大
②日体大 12－2 日女体短大
①日女体大 13－4 東京女体大
②東女体短大 不戦勝 日女体短大
①日体大 23－0 東京女体大
②日体大 13－4 東京女体大

【女子順位】 ①日体大4戦全勝（勝点2）②日女体短大②東女体大。

同大優勝、関学も復調

昭和38年度関西学生秋季リーグ戦は10月20日開幕。前季除名の桃山学院大は復帰できず、阪大昇格による8校によって一部の優勝が争われた。その結果同大が初日に関学を破った1勝が大きくものをいい、6回目の優勝を飾った。なおこれで同大は昭和36年いらい秋季リーグに3年連続優勝した。

▽一部

関大 27－14 阪大
同大 19（12－5 7－8）13 関学
京大 23－6 神大
甲南大 27－18 立命大
甲南大 35－14 阪大
関大 32－14 立命大
同大 38－6 神大
関学 21－18 京大
同大 29－9 京大
立命大 25－14 阪大
甲南大 22－14 関大
関学 38－9 神大
甲南大 23－10 神大
関学 27－13 関大
同大 50－12 阪大

同大の50得点は7人制統一後の最高得点。なお7人制の日本最多得点は第8回全日本室内（昭36・12・20）1回戦で滴水会（東京）が日大から52得点を奪っている。

京大 16－15 立命大
同大 26－11 立命大
京大 33－12 阪大
関大 24－9 神大
関学 27－19 甲南大
関学 24－11 立命大
神大 17－16 阪大
同大 27－6 甲南大
京大 22－14 関大
関学 50－21 阪大

関学の50得点は前掲の同大とタイ。

立命大 20－8 神大
甲南大 19（引き分け）19 京大
同大 36－10 関大

【一部順位】①同大7戦全勝②関学6勝1敗③京大、甲南大4勝2敗1分⑤関大3勝4敗⑥立命館大2勝5敗⑦神大7戦7敗。

【二部順位】①大阪経大5戦全勝②大阪市大、大阪府大3勝2敗④大阪工大、大阪歯大2勝3敗⑥大阪学芸大5戦5敗。

中京大、快調の8連勝

昭和38年度東海学生秋季リーグは11月9日開幕。中京大が4試合で113点をあげて圧勝8シーズン連続、8度目の優勝した。

▽一部

中京大 30－13 名工大
名大 18－14 岐阜大
中京大 31－14 三重大
名大 18－13 名工大
岐阜大 24－15 三重大
中京大 26（15－3 11－6）9 名大
岐阜大 21－8 名工大
名大 23－16 三重大
中京大 26－14 岐阜大
名工大 16－11 三重大

【一部順位】①中京大4戦全勝②名大3勝1③岐阜大2勝2敗④名工大1勝3敗三重大5戦6敗。

【二部順位】①滋賀大4戦全勝②南山大3勝1敗③静岡大2勝2敗④愛知学芸大1勝3敗三重大4戦4敗。

二年ぶり東北学院大

第8回（昭和38年度）東北・北海道学生選手権大会ゼ4校参加によるリーグ戦で10月26日、福島で行なわれ、東北学院大が東北大に雪辱2年ぶり、4回目の優勝した。

【順位】①東北学院大3戦全勝②福島大2勝1敗③東北大1勝2敗④北海道学芸大釧路分校3戦3敗

広島商大が3連勝

昭和38年度中四国学生秋季リーグ戦は10月岡山で行なわれ、広島商大が3シーズン連続優勝した。

* *

関学、早大に連勝

早大「三大学」では好調示す

第18回早大対関学定期戦（7人制）は昨年11月28日大阪中央体育館で行なわれた。

試合は互いにその持ち味をじゅうぶんに発揮して好試合となったが、多彩な攻撃を見せた関学が2年連続優勝した。対戦成績は関学の13勝5敗。

関学 18（10－7 8－6）13 早大

第3回早慶明室内定期戦は昨年12月14日東京の早大記念会堂で行なわれ、早大が明、慶に連勝、3年連続3回目の優勝を飾った。

慶大 26（13－13 13－11）24 明大
早大 24（14－7 10－12）19 明大
早大 27（11－9 16－11）20 慶大

* *

連載第7回

ハンドボール球史

——戦前から戦後の関東学生——

前号に付記するのを忘れてしまったが、昭和14年3月に学生球史上、記録しておかなければならない行事がある。

体協主催による「傷兵慰問体育大会」の〃送球〃競技である。この催しは昭和14年3月19日東京の陸軍戸山学校大運動場で行なわれた。ハンドボールは関東学生選抜チームの紅白対抗をもって参加した。学生史上、特筆されるのはピックアップ（選抜）チームが編成されたことで、これが最初である。

さらに、注目するのは、もし昭和15年に東京でオリンピック大会が開かれていれば、ハンドボールの日本代表はこの22人を中心に編成されていたと思う。いままでこの試合の記録はあまり採りあげられていない。今回はその記録を掲載し、以下に前号からの続きを連載しておこう。

▽傷兵慰問体育大会送球競技（昭和14年3月19日・陸軍戸山運動場）

関東学生選抜白軍	7—5	関東学生選抜紅軍

【紅軍】		【白軍】
文（日体）	FW	和田（日大）
内藤（慶大）		桜田（明大）
西（慶大）		崔（日体）
山田（日体）		佐原（早大）
有元（慶大）		加藤（早大）
中村（慶大）	HB	長妻（慶大）
李（日体）		菅（日体）
須藤（慶大）		肥後（早大）
島田（日体）	FB	前田（日体）
越智（日体）		井出（早大）
徳永（日体）	GK	古垣（文理）

関東学生リーグ総成績②

▽昭和16年春季＝明大復帰

文理大	4—3	法大
日体	31—0	文理大
早大	18—2	明大
慶大	24—2	法大
明大	4—3	文理大
早大	23—3	法大
慶大	14—1	文理大
日体	26—0	明大
法大	4—1	明大

昭和14年春新加盟いらい14連敗していた法大は、第5日明大を破り、勝利を飾った。

慶大	5—4	日体
日体	21—1	法大
早大	5—4	慶大
早大	12—4	文理大
慶大	20—1	明大
日体	10—0	早大

【順位】①日体、慶大、早大4勝1敗（同率優勝、日体は5連勝5回目。慶、早大は初優勝）④文理大、法大、明大1勝4敗。

▽昭和16年秋季

早大	11—0	明大
日体	24—1	法大
慶大	16—1	文理大
日体	16—0	明大
早大	5—2	法大
慶大	9—4	日体
早大	11—1	文理大
日体	20—1	文理大
慶大	15—0	法大
明大	9—4	法大
慶大	4—3	早大
慶大	12—2	明大
法大	4—1	文理大
文理大	6—3	明大
日体	10—5	早大

【順位】①慶大5戦全勝（＝2連勝・2回目）②日体4勝1敗③早大3勝2敗④明大、法大、文理大1勝4敗。

▽昭和17年春季

法大	7—6	日体
明大	12—10	文理大
早大	12—3	明大
日体	13—2	文理大
慶大	18—1	法大
早大	13—2	文理大
慶大	16—5	明大
慶大	17—0	文理大
早大	7—5	日体
明大	5—3	法大
早大	13—2	法大
慶大	9—1	日体
法大	10—5	文理大
慶大	5—4	早大

【順位】①慶大戦全勝（＝3連勝・3回目）②早大4勝1敗③日体、明大、法大1勝4敗⑥文理大5戦5敗。

いち早く復興

いまわしい戦争が終わったあと、日本は各方面で再建の手が打たれた。スポーツ界も終戦後1ヵ月余たつとラグビー界がトップを切って京都で復活試合（9月21日）を行なった。さらに大相撲（11月）、全早慶野球（11月18日）プロ野球東西対抗（11月23日）と続いた。

これらに続き、ハンドボール界は昭和20年12月2日東京北多摩の日産球技場（現日産厚生園）で、戦後最初のゲームとして関東OB対関東学生、日体対一高（現東大教養学部）の二試合を行なった。終戦からわずか3カ月。ハンドボールの復活は早かったわけだ。**復活記念試合**の成績は、

▽一高	3—1	日体
▽関東OB	3—3	関東学生

であった。

さらに二ヵ月後の昭和21年1月20日に**復活第1回**（通算第5回）

東西対抗が、西宮で協会主催のもとに行なわれた。全国のファンとプレーヤーに「日本ハンドボール界健在」を示したわけである。

学連記録とは特に関係ないが、ハンドボールの復活が当時の現役学生とOBの手によってなされた事実は記憶されるべきである。「戦後の記録」のプロローグとして、この大会の記録を掲げておこう。

西　軍（選抜）7（5－0 2－2）2 東　軍（選抜）

【東軍】
嶋西 崎西田出川口 永
高小 西 川中吉中小関 林 徳
FW　HB　FB　GK

【西軍】
田岡袋本宮間藤田畑谷上
村平小大四羽江神花泉井
FW　HB　FB　GK

主審・軒原（日体OB）

（交代）東軍＝FW神丸、HB島田。

西軍＝FW板根、杉浦、斉藤、HB山田、三木、FB松下。

これで対戦成績は戦前通算東軍4勝1敗。

さらに昭和21年5月12日東京女高師グラウンドで、関東学生リーグの復活を促進させるために戦後第一回目の関東関東OB学生の試合が行なわれた。

関東OB選抜 9（6－4 3－3）7 関東学生選抜

そして半月後、日体、文理大（現教大）、慶大、早大、明大、法大の六チームによって関東学連が復活。6月1日から女高師グラウンドを主会場に関東学生リーグが再開され、今日に至っているのである。（杉山）

関東学生リーグ戦後編①

▽昭和21年春季（復活第1回）

早大 9－1 明大
法大 6－4 慶大
日体 12－3 明大
早大 7－1 慶大
文理大 7－5 早大
日体 10－1 慶大
明大 6－4 慶大
早大 12－1 法大
文理大 2－1 明大
日体 記録不明 法大
明大 記録不明 法大
文理大 不戦勝 慶大
日体 記録不明 文理大
文理大 記録不明 法大
早大 6－5 日体

【順位】①早大、文理大、日体4勝1敗（三者同率・優勝預かり）④明大2勝3敗⑤法大1勝4敗⑥慶大5戦5敗。

▽昭和21年秋季＝中大新加盟・女子の部新設

明大 7－2 文理大
日体 19－0 中大
早大 11－0 慶大
早大 記録不明 法大
慶大 1－0 法大
早大 25－0 中大
明大 記録不明 日体
早大 5－1 文理大
日体 11－1 慶大
明大 6－5 法大
日体 記録不明 文理大
文理大 6－1 中大
法大 2－1 文理大
明大 不戦勝 中大
文理大 4－1 慶大
明大 5－3 早大
法大 13－0 中大
明大 5－2 慶大
慶大 2－1 中大
日体 5－1 法大
日体 12－6 早大

【順位】①明大6戦全勝（8年ぶり2回目）②日体5勝1敗③早大4勝2敗④慶大、法大、文理大2勝4敗⑦中大6戦6敗。

▽女子秋季（第1回）リーグ

日体 3－0 埼玉師範
音体 2－0 埼玉師範
日体 3－1 音体

【順位】①日体2戦全勝（初優勝）②音体1勝1敗③埼玉師範2戦2敗＝**昭和22年度以降は次号**）

各所の資料をまとめて、より正確な学連記録を残そうと思っています。スコア不明の試合や、誤りがあるかもしれません。読者諸兄のご協力をお願いします。なお、資料を提供くださる方は協会編集部気付杉山茂までお願いします。

地方球界の歩み

北から……南から……③

愛知県(2)

地方ハンドボール界の発展とその歩みは、地元高校ハンドボール界の消長に一体だといえそうだ。

愛知県の場合も例外ではない。愛知が国内のトップゾーンにあることを誇示できるのも、高校界をいくたびか全国を制した実績が大きくものをいっている。

なかでも男子の桜台高、女子の稲沢高の勝ち得た名声は、そのまま愛知県ハンドボール界の名声となっている。しかもこの両校の台頭以前に、男子では瑞陵高、一宮高、時修館高、旭丘高、女子では岡崎市高、一宮高などが充実した活動を示した。近年には桜台、稲沢の打倒を目標にして、中京商(男)、半田高(女)が進出、一層その〝球史〟輝やかしいものにしている。

こうした栄光への種まきは、宇津野年一氏、高橋正五郎氏、千田畝氏、花畑平男氏、山田仁止氏らの尽力に負うところが多い。桜台高の基礎を築いた宇津野氏、稲沢高を全国制覇へと導いた山田氏の功績は、まことに大きいといわねばならない。そして昭和23年2月に一宮で東京対抗が一般、高校男女の各部内にわたって開かれ、国内最高峰の試合を展開、ハンドボールのPRに大きな役割りを演じた。

運営面、競技面でこの大会を成功させたことは、25年度に全日本総合、国体開催を控えて県協会に自信を深めさせた。県協会の活動が軌道に乗り始めると、県内各チームの活動は以前にも増して盛んとなった。

指導者の多くはハンドボールの経験に乏しく、ほとんど他競技からの「移入者」であった。しかし他種目に負けまいとした努力が若い協会にはかえってプラスした。そうした努力が最初に実ったのが昭和24年の国体(東京)だ。この大会で一般女子の愛知クが3位に入賞、同男子の岡崎クも4位になった。さらに県協会と県内各チームを刺激したのは昭和25年1月に第1回全日本総会、同年10月に国体がそれぞれ地元一宮市で開かれ、好成果をあげたことだ。

昭和24年の国体での好成績は関係者の努力の最初の結実である。25年の2大会開催は関係者、選手にハンドボールに対する意欲を燃え上がらせるにこの上ない役目をはたしたのである。

2月の第2回全日本総合には地元ということもあって県内から男子3女子1が参加。女子の愛知クは見事に第1回のペナントウイナーとなったのである。

さらに国体では開会式当日、一宮市九品寺送球場に一万三千の大観衆を集め、県球史の一ページを飾った。

しかも一般男子で愛知クが決勝に進み、福岡ク(九州)と大激戦のすえ、1対1から翌日再試合という史上まれにみる白熱戦を展開。再試合の結果、2位に終わったものの、愛知県民に「ハンドボール」というものを強く刻みつけた。これによってハンドボールが、県の最も得意とするスポーツにまで成長させる大きな役割を演じたことになった。

一般に愛知県のハンドボール界が栄光の軌道にのったのは、昭和25年に全国高校選手権が始められてから見られている。このようにそれ以前から愛知県の誇るスポーツとしての開花があったのである。それ以後は文字通り栄光の道が、高校チームの活躍によって築かれていった。

桜台高の全国高校5連勝。昭和28年の桜台、稲沢による男女制覇桜台高の3年連続した全国高校、国体高校ダブルタイトル獲得。桜台、稲沢による2年連続国体高校タイトル獲得など…。

こうした第1次発展期におけるはなばなしいばかりの実績が、やがて桜丘会の発足となり、女子実業団の草分け愛知紡績の誕生となった。学生界の成長株中京大の台頭へといわゆる第2次発展期につながるのである。

第2次発展期の中心となる中京商の進出、『ハンドボールではなく、半田高、愛知紡績の活躍などは次号に記すことにしよう。

（つづく）

地方だより

芝浦工大が優勝 女子は大崎電気B組

▽第1回東京都選手権大会は昨年11月28日から30日まで東京体育館で行なわれた。男子（トーナメント）は芝浦工大が16－14で大崎電気を破り、女子（AB両リーグ）は大崎電気B組が大崎電気A組を破って初優勝した。

▽男子1回戦
大崎電気蒲田 23－13 中大
滴水会 40－5 明正ク

▽2回戦
芝浦工大 29－15 大崎電気蒲田
東大 23－15 千東ク
立大B 26－25 明大A
法友ク 不戦勝 安田生命
32普通科連隊 18－16 武蔵工大
立大A 23－10 日体大
法大 38－14 明大B
大崎電気本社 20－16 滴水会

▽準々決勝
芝浦工大 42－14 東大
立大B 22－21 法友ク
立大A 29－13 32普通科連隊
大崎電気本社 21－14 法大

▽準決勝
芝浦工大 33（15－4、18－6）10 立大B
大崎電気本社 25（16－4、9－7）11 立大A

▽3位決定戦
立大A 24（13－6、11－8）14 立大B

▽決勝
芝浦工大 16（6－5、10－9）14 大崎電気本社

▽女子Aリーグ
大崎電気B 11－3 京重機東
レナウン工業 12－9 東京重機
大崎電気B 7－5 レナウン工業

▽Bリーグ
大崎電気A 不戦勝 日女体短大
大崎電気A 11－6 日体大
日体大 不戦勝 日女体短大

▽3位決定戦
日体大 12（5－4、7－3）7 レナウン工業

▽決勝
大崎電気B 12（7－5、5－3）8 大崎電気A

体育学校2連勝

▽表2回関東自衛隊選手権大会は昨年12月1日東京・市ケ谷駐とん地で開かれ、体育学校が2連勝した。

▽準決勝
32普通科連隊 20－14 富士学校
体育学校 30－6 小原台

▽5、6位決定戦
通信学校 23－19 少年工科学校

▽3位決定戦
富士学校 25－10 小原台

▽決勝
体育学校 20（10－5、10－9）14 32普通科連隊

〔評〕市ケ谷駐とん地は戦前陸軍士官学校であった。参加チームは代表6チームであるが、自衛隊がここまでハンドボールを盛り上げた努力には感謝したい。とくに森川一佐ら上司の方々の深い理解には頭が下がります。試合経験が少ないので欲はいえないが、とにかく堂々とプレーをやっていた。点差が開いても少しもくさらず、終了のホイッスルが鳴るまで走り回っていた。閉会式は実に秩序正しく、見ていて非常に気持がよかった。やがては自衛隊の全国大会が開かれるだろうし、またフランス陸軍チームのように日本最強のチームになる日も夢ではないと思った。（的場）

北陸三県で金商ク

▽北陸三県室内大会（12月1日、金沢兼六中学体育館）

▽1回戦
金商ク（石川）24－7 県工ク（石川）
羽咋ク（石川）15－13 金沢市工OB（石川）

▽準決勝
富山大（富山）19（9－6、10－11）17 羽咋ク
金商ク 28（15－1、13－4）5 福井商ク（福井）

▽決勝
金商ク 21（9－7、12－9）16 富山大

愛知紡が6連勝

▽第15回東海選手権（一般）、（9月14日、15日、岐阜市加納高）男子は清商ク（静岡）が2連勝、女子は愛知紡（愛知）が田村紡（三重）にからくも勝ち6連勝した。

▽男子リーグ戦
清商ク（静岡）13－10 桜丘会（愛知）
本田技研（三重）21－20 全岐阜（岐阜）
桜丘会 19－12 本田技研
清商ク 18－10 全岐阜
清商ク 24－10 本田技研
桜丘会 33－15 全岐阜

【順位】①清商ク②桜丘会③本田技研④全岐阜。

▽女子リーグ戦
田村紡（三重）14－4 城北ク（静岡）
愛知紡（愛知）22－3 南嶺会（岐阜）
田村紡 22－3 南嶺会
愛知紡 20－1 城北ク
城北ク 7－2 南嶺会
愛知紡 7－6 田村紡

【順位】①愛知紡②田村紡③城北④南嶺会。

▽第10回静岡県総合選手権大会（11月23、24日、清水市）

▽男子準決勝
日野自動車ク 8－4 清水商A
清商ク 23－5 静岡農A

▽同決勝
清商ク 29（14－4、15－7）11 静岡日野自動車

▽女子準決勝
清女高ク 7－5 静岡城北高
吉原高 3－2 清水女高

▽同決勝
清女高 11（3－3、8－0）3 吉原高

揖斐川電工（女）活躍

▽第5回岐阜県総合室内選手権大会は12月1日大垣市で行なわれた。男子は加納高が決勝で岐阜教員クを後半逆転して快勝、女子は新進揖斐川電工（大垣市）が圧倒的な強みをみせて優勝した。揖斐川電工は11月に行なわれた岐阜県種目別選手権でも一般女子に初出場して優勝している。

▽男子準決勝
加納高 15－8 岐阜大
岐阜教員ク 13－8 白梅ク

▽同決勝
加納高 15（5－6、10－0）6 岐阜教育ク

▽女子準決勝
揖斐川電 8－3 加納高
大垣南高 13－1 近江絹糸

▽同決勝
揖斐川電工 17（10－2、7－4）6 大垣南高

▽第4回愛知県実業団選手権（12月8日、名古屋市松蔭高体育館）

▽決勝
新三菱重工 22（11－4、11－2）6 東海製鉄

▽第13回茨城県総合選手権大会（11月16－17日、県営グラウンド）

▽男子準決勝
茨城大A 12－6 原研
日立製作 12－4 石岡OB

▽同決勝
茨城大A 21－15 日立製作

▽女子準決勝
笠間高 14－13 太田二高
水海道二高 13－9 西峰ク

▽同決勝
水海道二高 13－8 笠岡高

▽男子中学準決勝
千代田中A 29－5 赤塚中
土浦一中 18－5 新治中

▽同決勝
千代田中 22－11 土浦一中

投書欄

桃山大復帰の斡旋を

　秋の関西学生リーグに桃山学院大は出場できなかった。やはり、春季のトラブルが尾を引いて復帰がかなわなかったらしいが、はやトラブルから一年になろうとしている。その間なんの進展もなかったのは、関西学連が相当強硬な態度を示しているものと推測される。

　しかしトラブルのとき、渡辺理事長は『復帰の方法は今後じゅうぶん検討する』と語っており、全く見通しが暗いわけではあるまい。

　桃山学院大は近年めきめき力をつけてきた新進チーム。桃山を失うことは関西リーグのマイナスになるのではなかろうか。桃山の復帰を全日本学連あるいは本部協会が関西学連へ斡旋すべきではないかと思う。

　この拙稿が採用されたとするならば、そのころまでには「桃山復帰」の朗報を聞きたいものである。（岡山・小川幸文）

「GK」の明示を習慣に

　昨年もいろいろな大会があった。そのたびにいろいろなプログラムやメンバーが作られたが、いずれも旧態依然。

　相変わらず選手の位置をナンバーで表示している。これは関係者には通じるが、一般ファンには不親切ではなかろうか。

　せめてフィールドプレーヤーとキーパーは分けるべきである。特にキーパーには「GK」と明示する習慣をつけたらどうだろう。それにはこれまでどおり2、3…10とし、そのあとGK1、GK11としたらよいと思います。（東京・原勝二・学生）

「ステラー」が来たら…

　フランスの名門「ステラー」の来日が決まったそうで、楽しみにしています。ところで今度の国際試合にはぜひ「全日本」を編成して、そのカードを実現してほしいと思います。ルーマニアのときは、すべて単独チームが対戦。選手の励みにはなったと思いますが、内容的興味が薄らいだことは否定できません。

　今夏の日仏戦は、ぜひ「全日本」を男女とも編成して、日本のトップレベルの力を示してもらいたいものです。それともう一つ。「全日本ジュニア」を女子だけ編成したらいかがでしょう。陣容は女子高校界の優秀選手を集めたもの。後続選手の育成のためにも将来のためにも役立つと思うのですが…（大阪・関心寄世男）

◆日仏戦に「全日本」をという投書はほかに4通ありました。

編集が雑

ハンドボールのプレーヤーやファン（OB）にとって、本誌は実にありがたい「存在」です。

　毎号、発行の日を楽しみにしている者ですが、先号（第15号）はいささか編集が粗雑にすぎたようでまことに残念です。

　行と行の間が不統一だったり、ミスプリント、誤植が非常に多かったようです。もう少し読みやすいように割り付けをくふうされたらと思います。末筆ながらますますのご発展をお祈りします。（大阪・大島武夫・会社員）

質問欄

問い　以前、高校男女の東西対抗があったと聞きますが、その成績をお知らせください。（兵庫　木之下　肇）

答え　高校東西対抗は、男女とも昭和22年から26年までの5回行なわれました。東西とも優秀選手の選抜チームを編成したことは一度もなく、単独チームの対戦でした。

▼第1回（昭和22年、神宮）

▽男子
東軍（世田谷工）　5―4　西軍（倉敷工）

▽女子
西軍（倉敷女）　7―1　東軍（第一師）

▼第2回（昭和23年・一宮）

▽男子
西軍（天王寺）　5―3　東軍（鎌倉学園）

▽女子
西軍（倉敷精思）　2―1　東軍（足利女）

▼第3回（昭和24年・丸亀）

▽男子
西軍（天王寺）　6―2　東軍（世田谷工）

▽女子
西軍（寝屋川）　4―1　東軍（一宮）

▼第4回（昭和25年・静尚）

▽男子
東軍（一宮）　3―1　西軍（天王寺）

▽女子
西軍（寝屋川）　8―2　東軍（涌谷）

▼第5回（昭和26年・今治）

▽男子
東軍（桜台）　4―1　西軍（成美）

▽女子
東軍（静岡城北）　5―4　西軍（岡山落合）

▼通算成績　男子＝東軍3勝2敗
　　　　　西軍＝4勝1敗

問い　日本ハンドボール協会の国際ハンドボール連盟の加盟年度は？（熊本・伊藤貞二）

答え　国際ハンドボール連盟の誕生は昭和3年。日本はこのとき日本陸上競技連盟の名で加盟、つまり国際ハンドボール連盟の発足当時からの加盟国でした。

　その後昭和13年に日本送球協会が発足して陸連から代表権を受け、戦後は昭和26年に仮加盟（仮復帰）が認められ、昭和27年正式に復帰が承認されました。

問い　甲南大の最近10シーズンの順位をお知らせください。（京都・砂田　透）

答え　昭和34年春二部5位、秋二部2位、昭和35年春5位、秋5位、昭和36年春5位、秋6位、昭和37年春7位、秋5位、昭和38年春3位、秋3位。

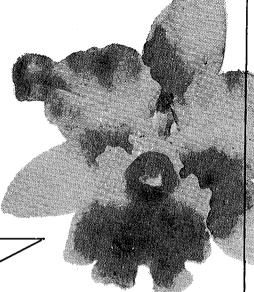
編集後記

▽…第5回世界男子7人制選手権大会に日本が参加する。2月19日羽田発、3月25日帰国するが、世界選手権での活躍を祈ります。ヨーロッパ遠征は男女合わせて今回は四度目、初の1勝はいつか。これはハンドボール関係者にとっては大きな希望です。

▽…昨年は国体で天皇、皇后両陛下が、全日本総合室内には義宮さまが、夏の全日本総合には高松宮さまがハンドボールをご覧になった。マイナー・スポーツといわれているハンドボールを皇室の方がご覧になられたのはうれしいことです。このさい、協会首脳部の人たちはさらに奮起してハンドボール発展のために努力してもらいたい。

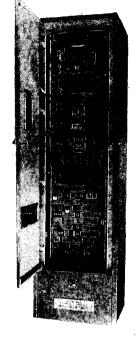
▽…ことしの10大ニュースの第1位は立大の健闘でしょう。スペースがなくてこの企画はお流れになったけれど、関東学生春季リーグ、全日本学生、全日本総合に優勝し、全日本総合室内第2位はりっぱでした。学生が強くならないとアマ・スポーツの伸張はあり得ない。

▽…ことしも国際交流がある。6月にフランスからステラー男女チーム（35人）が初めて来日する。また日本高校男女チームが韓国へ遠征する。

▽…〝ハンドボールの女王〟愛知紡はついにいちども全日本タイトルを握らず、38年を終わってしまった。沢田、青木、山崎三選手が退部して再建にのり出したが、女子のレベルをここまで持ってきたのは愛知紡の力も大きい。大崎電気、大洋デパートとの三どもえの日が早くくることを願っています。（ふぐ）

Aibo
アイボー

Osaki

大崎電気の電子機器

生産の合理化と生産性の向上に
活躍するエレクトロニクス関係機器

中央指令式受量計算作表装置

送量装置

デジタルテレメータ

電圧，電流，電力，電力量，水位，温度，圧力その他時々刻々に変化するいろいろの量を測り，数百メートルあるいは数キロメートル以上離れた遠隔の位置で自動的にそのデータを整理計算要約し，タイプライターにより直ちに役立つ生産管理用記録表を作成する自動装置であります。なお現在はオールトランジスター式で構成されております。

営業品目
積算電力計，計器用変成器
電流制限器，配電盤
分電盤，ニュートラルスイッチ
電圧調整器，テレメーター

大崎電氣工業株式會社

本社 東京都品川区五反田1の263
電話 (441) 2111 代表

日本ハンドボール協会編
ハンドボール 第十六号
昭和三十九年二月十日印刷
昭和三十九年二月十五日発行
発行所 東京都千代田区神田駿河台四ノ六
日本ハンドボール協会 電話(261)九五一一～五 振替東京五八三四八番
編集兼発行人 高嶋冽
定価八十円 (〒)二十円